64-250
1200501278107
64
50
×複写

始

宮內廳書陵部

遣外使節日記纂輯

第二

昭和四年 宮內廳

064-250

遣外使節日記纂輯第二

例言

一、本書ニハ、木村喜毅ノ奉使米利堅紀行、勝安芳ノ航海日記、及ヒ松平石見守康直ノ隨員野澤郁太、市川渡ノ筆ニ成リタル遣歐使節航海日錄、並ニ尾蠅歐行漫錄ノ四部ヲ輯錄セリ。

一、萬延元年正月、新見豐前守正興等遣米使節トシテ派遣セラルヽヤ、幕府軍艦奉行木村攝津守ヲ司令官ニ、勝麟太郎ヲ邦艦咸臨丸艦長ニ任シ、使節一行ヲ護衛シテ米國ニ渡航セシム。

023

一、是年正月十三日佐々倉桐太郎、小野友五郎、肥田濱五郎、中濱萬次郎、赤松大三郎、福澤諭吉等當時ノ英才八十五名咸臨丸ニ乘シ品川ヲ解纜シ、二月六日桑港ニ着錨、三月八日使節一行ヲ迎ヘ、閏三月十八日桑港ヲ發シ、布哇ニ寄港シテ五月六日品川ニ歸着セリ。奉使米利堅紀行ト航海日記トハ、卽チ此間ノ見聞ヲ記述セシモノニシテ、前者ハ木村浩吉氏所藏ノ原書ニ據リ、後者ハ早稻田大學圖書館所藏ノ勝翁自筆本ニ據ル。

一、文久元年十二月、幕府外國奉行竹内下野守保德ヲ正使ニ、神奈川奉行兼帶松平石見守康直ヲ副使ニ任シ、兩都兩港開市開港延期問題折衝ノ爲メ歐洲締盟列國ニ派遣ス。是月二十二日、正副使節以下三十六名、英國特派軍艦「オーヂン」號ニ搭乘、明年正月元旦、長崎ヲ解纜、三月九日佛都巴里ニ着、爾後英、蘭、獨、露及ヒ葡萄牙ノ諸政府ヲ歷訪シテ使命ヲ果シ、十二月九日江戸ニ歸着セリ。本書收ムル所ノ遣歐使節航海日錄ト、尾蠅歐行漫錄トハ共ニ副使松平康直隨員ノ手ニ成リシモノニシテ、前者ハ嚮ニ松井子爵（松平氏の改稱）家ノ印行セシ活版本ニ據リ、後者ハ維新史料編纂會所藏ノ轉寫本ニ據ル。

昭和四年四月

日本史籍協會

遣外使節日記纂輯第二

目次

一奉使米利堅紀行　五五
一義邦先生航海日記別錄　一一三
一幕末遣歐使節航海日錄　二四九
一尾蠅歐行漫錄

奉使米利堅紀行

目次

奉使米利堅紀行

航海述略

抑余ハ米利堅航海ハ命ありて我使節をもしめて彼國へ遣るゝ寄海路
擊固のきめ且ハ吾邦往昔より外國へ船を出せし例おきをもつて其端を開
んとの盛舉あれバ余ハ宿志といひ素より其職を忝もれバ今更其拙陋をも
辭せる事の能ハさりしかど
吾邦の海軍ハ僅ハ一兩年以前より設られし處ハして諸の規律ハまゝ整て
ハ如何とあれハ航海ハ諸術ハ於てハ宇宙間歐羅人ハ及ふものおく吾邦と
いへとも彼の長技を師とせさるを得ス然りといへとも海外の制度をもつ
て一朝ハして吾邦ハ施しあさく此度の航海の最おさくして余の苦心もる
ハもしめより此一事にあり

今度仕出さんとする船を百馬力の捻仕掛蒸氣船よして咸臨丸と名つく三年前和蘭政府より買入れし處こ此航海を吾國未曾有の大業なれハ乘組を精撰せる事最緊要ことて

運用方ハ　佐々倉桐太郎　濱口興右衛門　鈴藤勇次郎
測量ハ　。小野友五郎。伴　鐵太郎　松岡磐吉
蒸汽ハ　肥田濱五郎　山本金次郎
公用方よハ　吉岡勇平　小永井五八郎
通辨官ハ　。中濱萬次郎

而して指揮官を勝麟太郎とす此人々を皆予の親友よ〳〵て能其心腹をも知業前も拔群さるを以て政府へ申立此度の乘組よ定めしかりまさ少年の士官よを根津欽次郎赤松大三郎岡田井藏小杉雅之進と醫師二人船夫火焚六十五人予り從者を併せて九十六人とせ

船よ貯備へき食料ハ大凡十閏月の見込よて支度かせしり船中狹小よて餘

地かき故不足の物品ハ皆彼地よて買入へしと思へり其品ハ大抵吾國人の常食とする米醬油鹽魚海菜等よて米ハ最必需の品かれハ多分よ積入しり とも其久を經て朽腐せん事を恐れ別よ乾飯を多く貯へしめさり是等ハ極て瑣末の事かれとも航海よ慣されハ人々の議論も區々よてもや出帆の期も近つき甚煩勞よ堪へさる事多りりき

十一月廿八日特よ余を從五位下よ叙し攝津守よ任し新よ秩二千石を增賜りぬ其翌廿九日よハまさ亞墨利加使命の暇賜り忝くも　大君を拜謁し奉り終て黃金十枚　御衣二襲よ外套を副へ賜りぬ寵恩優渥賜賚複疊感泣よ堪さりし事共こ

余今度の航海よハ海路よ熟せる亞墨利加人一兩輩を伴ん事を政府よ乞しに速よ許容ありて幸よ合衆國のロイテナント、ブルークといふ人横濱の市街よ滯在せしを同國のミニストルよ達し異議かく承諾せり此人をスクーチルフエチマーコッバれ甲比丹とかり吾近海よ來て測量せしり颶風の爲

よ船を壞られ其修補中滯留せしよて人物極て溫良よして航海の術よ達せり此人の此行よ從ふを余よ於て尤大幸とも〻る處あり

船の用意もやゝ整ひ其年も暮て新年を迎へさり正月の七日よやゐりゞん使節の迎として合衆國の蒸氣フリゲット軍艦ポーハタン品川の港よ來著せり此船を外車の蒸氣船よして世界よ名を知られさる美好の船あり其提督はタッテナル甲比丹はペルソンといふ人よて予長崎よ在し時屢其船へも行面識の人ありき

使節の出帆ハ正月十九日西洋千八百六十年第二月十日と定め咸臨丸ハ其前金川よ至り亞人との談判もあれハ來十三日を拔錨の期と定めたりまさ此頃閣老より命ありて使節の內若病疾等よて差礎ある時ハ代りて話聖東よ至り予よ使節をつとむへしと又航海往返の內都合次第無人諸島を傍觀すへしとあり

十二日ハ朝とく登　營し　大君を拜謁し奉り夫ゟ閣老をもしめ諸の僚輩よも別を告家よ歸れハ親戚僚友相集り盃觴を執て余り無事よ歸らん事を

祝せり薄暮家君及ひ妻兒等と手を分て操練局より端舟よ乘し品川洋あるあくれハ十三日の黎明指揮官矢田堀子及ひ乘士官舶よ來て予り行を送んさめ朝陽船を横濱の港まて出さんとあり予其懇篤の意を厚く謝せり又屬吏關口志村の兩士も來て懇よ別を告さり予此關口あるものよ舶の修補の事を托せしり數日の間勉强して速よ其工も畢り且虛費も省あさるハ此人の力よして尤滿足もる處之志村ハ歳十二三許の良き兒を伴へり余其歸らんともる時携來りし菓子あと與へさりき

扨吾舶ハ第十一時より蒸氣を焚付一時よ錨を揚横濱よ向出船し朝陽船ハ十一時よ出帆しさり舶の方向ハ東南五時よ羽田の岬を過黃昏横濱灣よ投錨朝陽船より矢田堀をもしめ諸士來て本日の出船を賀し且別を告て直よ江戸の方へ向出帆せり

余鎭臺竹本君よ書を贈り亞墨利加人乘組の事を促しさり又勇平を運上所

に遣し其事を談せしむ然るに明日ハ日曜日なれハ亞人の荷物ハ一切積入あさく明後十四日に積入へきよし亞人申出しとなり

翌十四日甲比丹ブルーク船に來ていへらく同人本國より召連さる吾國の漂民政吉を此度横濱の鎮臺に引渡もへきなれも其事の濟次第乘組へきとなり余聞て再ひ鎮臺に書を送り其事を促しさりしに本日ハ近傍の地を巡視せんとて拂曉より出さりと因て其書を下吏に托し巡視の先迄持せ遣りさり鎮臺書を見て其歸路直に運上所に立寄漂民政吉を請取其事萬端濟しとて夜に入報書來れり

十五日第十時に甲比丹ブルーク、ミストル、カーン外ニ同行九人船に來れり甲比丹にハカユイトの内食事部屋を取繕ひ借與へさり其日第一時に浦賀へ向出帆せしに第五時同港へ投錨一兩日此地に停船し薪水野菜を買入んとす此處ハ佐々倉山本濱口岡田等の郷里なれハ速に上陸を許し歸省せしめさり

此地の小吏指田倫藏なるもの佐々倉の兒を伴ひ船に來れり兒ハよく父に似て怜悧に見ゆ倫藏ハ余り童時より知るものにして相見さる事殆十年予其頭上ともや二毛あるに驚けり

船夫ハ代る〳〵上陸せしめ又鮮魚數十頭を買一同に食ハしむ此地の魚ハ新鮮にして極て美之薪水も十分に取入されハ十九日（西洋第二月十日）午後三時に此港を出帆せり折しも西風強く蒸氣にて第五時相州城ヶ島の南東の方に至り夫より西に向て走る事二里又南西に向て走る事五里半夫より帆を用ひ南東に向大島の沖に至る夜半針路を東南に變も又東北南に向ひ曉四時北東に向ひ又六時東に向ふ

浦賀港

實測（北緯三十五度二十一分〇秒　東經百三十九度五十五分五十五秒）　晴雨儀三十〇五一　寒暖儀四十八度

廿日晴　風北方向を東北に取潮に逆ひ大洋に出る事五十里許此邊所謂黑潮の急流にして船行甚遲し

實測北緯三十四度四十一分東經百四十二度三十八分

廿一日　方向東北風東より北より廻り逆浪山のごとく船中へ打入傾く事屢々

午後此處の實測北緯三十六度三十四分東經百四十二度十六分と記し硝子(フラス)罐の内より入洋中より投ぜ是ハ後航海のもの拾ひ取其處の經緯度を正し潮行の順逆を知るの道あり夜より入次第より風模樣よろし

晴雨儀七百六十二　寒暖儀五十三度

廿二日雨　方向東北風北北東曉より風浪つよく船上へ打上る事不絶終より後檣の帆を吹破らる

實測北緯三十六度三十分東經百四十五度三十二分三十秒　距三十六里合百二十二里

廿三日雨　方向東小北風北西小北曉より霰降出し風變んとして波高く動搖甚し端船を釣さる綱切さり因て是を船中より取入れさり第六時より至て猛風彌甚しく前檣の帆を吹破らる夜より入風少減し月出て波始て靜あり

昨日よりけ猛風よて滿船火食ぜる事を得ぜ船夫ども皆疲勞して倒臥者過半あり

推測北緯三十七度十四分三十五秒東經百四十八度三十八分〇秒六　距七十二里合百九十四里

廿四日雨　方向東北東　風北北東

此日時々霰降出し波高し午後二時風西ニ變して少く和さり同時過針路を東北北より轉す

推測北緯三十七度三十一分四十七秒東經百五十度二十一分四十八秒　距四十五里七合二百三十九里

廿五日　方向曉四時より七時迄東二分一北夫より東北東より轉し又十時より至て東二分一南より轉す　風北

是日海面大より荒立雨雪降來り船上へ波打上暴風船を簸揚し帆檣を折んとす依て帆を縮めて走る

實測北緯三十六度二十三分二十五秒東經百五十四度五十四分〇秒　距六十六里合三百五里

晴雨儀七百五十　寒暖儀四十八度

廿六日　此日風微ゑして方向不定唯漂搖するのみ黄昏風南東より來　行約五里

實測北緯三十六度八分〇秒東經百五十五度二十五分三十七秒　距二十七里合三百三十二里

晴雨儀七百五十五　寒暖儀五十一度

廿七日　方向北東北東　風南曉より風猛波高船上一圓水とかる午後風西北西ゑ變し夜ゑ入益烈し帆を疊み是を避んとすれとも船夫皆疲勞して働得ゑ船簸揚して半ハ海ゑ沈んとす其危いふるりらゑ

實測北緯三十七度四分〇秒東經百五十七度十二分〇秒　距五十五里半合三百八十七里半

晴雨儀七百五十四

廿八日　方向東北東　風西北西昨夜よりの暴風ゑて波船上へ打上る事不絶ロイクも終日閉たるまゝゑて暗夜のことく衣被枕席皆濕ひ器材損傷ゑるもの少ららゑ暮ゑ至り風西ゑ轉して少く和らきゑり

推測北緯三十九度九分六秒東經百六十度七分十三秒　距九十八里合四百八十五里半

廿九日　方向東北東　風北西是日曇天波靜かり

推測北緯四十度十六分〇秒東經百六十三度九分五十五秒　距八十八里合五百七十三里半

三十日　方向如前曉より風漸微ゑして船漂ふて不進是時船の左ゑ當て遙ゑ三本檣の船を見る暮ゑ至て順風を得行約六里

實測北緯三十九度三十六分五十秒東經百六十六度二十一分〇秒　距五十七里半合六百三十一里

二月朔日

方向北東小東　風西北曉より次第ゑ強く諸帆を減せり夜ゑ入空曇風稍和く夜半風又東北ゑ廻り浪高く船上へ打入事屢かり

推測北緯四十度二十四分三十二秒東經百六十八度三十一分〇秒　距五十六里合六百八十七里

二日　方向東小北　風西午後東北東ゑ變す海面平ゑして波打上る事稀なり

推測北緯四十一度四分四十四秒東經百七十一度五十四分四十六秒　距七十一里合七百五十八里

晴雨儀七百六十　寒暖儀五十六度

三日　方向如前　風西小南　行約八里

推測北緯四十一度十六分五十秒東經百七十六度〇分三十四秒　距九十三里合八百五十一里

晴雨儀七百五十九　寒暖儀五十二度

四日　方向如前　風西小北午後小雨夜雲晴海上平ゑして行約八里

實測北緯四十度三十七分〇秒東經百七十九度三十分三十秒　距九十二里合九百四十三里

晴雨儀七百六十　寒暖儀五十三度

五日　方向東北北半　風如前曉南西の方ゑ虹見ゆ須臾ゑして小雨來る風南西ゑ變し次第ゑ猛し行約七里午後ゑ至りて風波稍恬ゑして出帆後初ての快晴あり

實測北緯四十度三十一分〇秒東經百七十七度三十八分〇秒　距七十七里合千〇二十里

晴雨儀七百六十七　寒暖儀五十二度

六日　方向如前　風南西行約四里

實測北緯四十度三十六分二〇秒東經百七十四度三十一分二十七秒　距五十七里合千〇七十七里

晴雨儀七百七十　寒暖儀五十二度

七日　方向東北東　風小東是日天麗風恬海面平ゑして船更ゑ進まも今朝より船尾ゑ三本檣の船を見しり次第ゑ近つき亞國の旗章を表せり又彼船より四九一〇の印旗を引上何船ありやと問し故此方ゑて五四七二の旗を上げ日本國軍艦あるよしを答へり兩船間近ゑ相接し甲比丹ブルークルーフルを以應答せり此船ハ唐國香港よりサンフランシスコゑ至るの商船ゑして支那人多く乘組めり

實測北緯四十度四十六分十四秒東經百七十三度十一分〇秒　距三十五里合千百十二里

晴雨儀七百七十二　寒暖儀五十四度

八日　方向北小東半東風東小南夜ゑ入東ゑ變し時々小雨來る

實測北緯四十二度二十六分五十三秒東經百七十一度二十四分三十六秒　距六十三里合千百七十五里

九日小雨　方向北東　風東南東次第ゑ強波高くして船盪漾甚し行約五里

曉風北西ゑ變し空晴波靜也

推測北緯四十二度二十三分七秒西經百六十九度四十六分三十七秒　距四十七里合千二百二十二里

晴雨儀七百六十六　寒暖儀五十六度

十日　方向東小北半北　風北小東よりして微かり霧深して咫尺を辨せも夜月色皎然甲板上を散歩頗る適意を覺えさり

推測北緯四十三度三十二分七秒西經百六十八度三十五分二十秒　距二十八里半合千二百五十一里半

晴雨儀七百六十九　寒暖儀五十五度

十一日　方向如前　風東南東是日も天陰霧深して雨のことし行約五里食用水を點檢せしむ猶十個の水函（ケートル）を餘せり

推測北緯四十三度四分十五秒西經百六十六度三十九分五十三秒　距四十一里合千二百九十一里半

晴雨儀七百七十　寒暖儀五十四度

十二日　方向如前　風南小東午後より霧晴西の方より快風を得さり行約六里夜よ入風增〻よろしく八里よ至る月色朦朧として頗春意あり

實測北緯四十三度四十八分四秒西經百六十四度十七分九秒　距七十八里合千三百六十九里半

晴雨儀七百七十八半　寒暖儀五十八度

十三日　方向如前　風西小北行約七里是日船夫一鳥を釣獲さり灰色よして大さ鴻のことし舟人東九郎と稱するもの之夜風微よして船進まも

實測北緯四十三度三十四分三十六秒西經百六十度五十二分十八秒　距七十七里合千四百四十六里半

晴雨儀七百八十一　寒暖儀五十三度

十四日　方向東小北　風南西是日天氣晴和船中衣被笈曝し灑掃も連日の雨風濕熱よ犯らさるゝもの少ららも依て豫防として火酒よ藥を漬し船夫等よ與しめさり

實測北緯四十二度三十三分三十六秒西經百五十九度十分十七秒　距四十五里合千四百九十一里半

晴雨儀七百七十八　寒暖儀五十五度半

十五日　微雨　方向如前風南西行極て快八里より十里よ至る一小豚を宰し食ふ

推測北緯四十二度二十六分四十二秒西經百五十六度二分五秒　距六十九里合千五百六十里半

晴雨儀七百七十　寒暖儀五十五度

十六日　方向如前曉より飛雨浪高く船盪搖甚し行約五里夜霰降風增猛行八里より十里ゟ至る

實測北緯四十二度〇分九秒　西經百五十一度三十一分〇秒　距百十里合千六百七十里半

晴雨儀七百六十五　寒暖儀五十四度半

十七日　方向如前　風西北西天明霰雪大ゟ降る風强く浪高し行約八里午後舟人いふ一小島を見ると細觀せれは雲之

實測北緯四十一度十四分五十五秒　西經百四十七度十六分五秒　距百二里合千七百七十二里半

晴雨儀七百六十　寒暖儀五十二度

十八日　方向如前風北北西時々飛霰夜ゟ入風靜ゟして月晴之り

實測北緯四十度五十一分十七秒　西經百四十四度四十三分五十八秒　距六十六里半合千八百三十九里

晴雨儀七百五十二　寒暖儀五十二度

十九日　無風方向不定午下風東南より來る船動搖甚し黃昏猛風雨を挾んて來る其勢極て烈し

實測北緯三十九度五十三分五秒　西經百四十度五十四分四十三秒　距五十一里合千九百二十三里

晴雨儀七百五十　寒暖儀五十四度

實測北緯四十度十七分〇秒　西經百四十一度五十七分十五秒　距三十三里合千八百七十二里

晴雨儀七百四十七　寒暖儀五十一度

廿日　方向北東　風北西より西南ゟ廻る依て針路を東北ゟ轉す

實測北緯三十九度五十三分五秒　西經百四十度五十四分四十三秒　距五十一里合千九百二十三里

晴雨儀七百五十　寒暖儀五十四度

廿一日　方向東北北　風西時々小雨午後空晴風波穩かり

實測北緯三十九度三十四分四十三秒　西經百三十八度五十一分十四秒　距四十七里合千九百七十里

晴雨儀七百六十三　寒暖儀五十六度

廿二日　方向東小北半北　風西南西昨夜より風力頗快行約九里本日よりサンフランシスコ迄凡十二度三日餘ゟして陸地を見るへしとゝ

實測北緯三十九度二十一分三十秒西經百三十四度五十九分四十三秒　距八十九里合二千〇五十九里

晴雨儀七百六十六　寒暖儀五十六度

廿三日　方向東小北　風南夜ゑ入快晴月出て風力少く增さり

實測北緯三十九度十二分廿三秒西經百三十度五十九分十秒　距九十四里合二千百五十三里

晴雨儀七百六十四　寒暖儀六十度

廿四日　方向東北東　風南東行約五里夜小雨海面平かり〇今正午より亞國海岸迄百二十里許とも

實測北緯三十九度七分五十九秒西經百二十八度三十七分四十秒　距五十五里合二千二百〇八里

晴雨儀七百六十一　寒暖儀六十度

廿五日　方向風如前第十一時三本檣の舶を見る暫時我舶の南を駛過花旗の商舶かり又同時舶の北ゑあさり三桅船見ゆ遠して辨しかさし

推測北緯三十九度四十四分二十四秒西經百二十六度二十一分十二秒　距六十四里合二千二百七十二里

晴雨儀七百六十三　寒暖儀六十度

廿六日快晴　方向東南東半南夫か東小南ゑ轉す第五時舶の左に一點の山見ゆ卽カイホルニヤけ地かり八時より蒸氣を用ひ次第ゑ近付右の方ゑ小島五ッ程あり其上ゑ照夜燈を設く九時ゑ至て向ふよりスクーネルけ來るあり港案内の者かるよし船足を止て乘移らしむ又小舸ゑ數人乘來り野菜魚薪水等を售んを求其内壹人舶ゑ來て乘組人員航海日數等を問ふ是ハ官府より出せしものと見へさり

灣ゑ入んとする時右の方ゑ高き山ゑ沿ふて礮臺あり皆磚瓦ゑて築上城壘の如く砲を三層ゑ置凡三百七十門といふ又山上ニも迦農砲數座あり港の中央にアルカツレーといふ小嶼あり此所ゑも堅牢かる炮臺を設其數二百五十門ありといふ吾舶ゑ對して合衆國の旗章を昇降しさり

午後第一時サンフランシスコけレヽヨマチといふ海岸ゑ投錨此地ゑ吾國の舶來りしハ實ゑ稀有の事かれハ市中群をかし遠望するもの蟻の如くに見へゑり卽時ブルークと共ゑ桐太郎與右衞門勇平萬次郎を上陸せしめ著

船の由を此地の役人より通知せしむ此者とも市中を見物せしより亞人より懇切なる取扱を請しといふ

サンフランシスコなる地ハ合衆國の西埠にして北緯三十七度西經百二十二度氣候溫和にして氷雪なく至て稀なると人口六萬二千大抵商賈を業とし五方の人來て雜居せ港内にハ大小商船幅湊し貿易極て繁華なり市街ハ山を負ひ海に臨めり家屋ハ磚瓦を以築上三層或ハ四層に作る每家ガスランプを取て燭とし又街衢中に設て往來に便にし白晝の如し

二月廿七日　午後第一時此地の總司官プレヂテント名セスミカ人名及其屬官十二人を伴ひ船に來れり此人ハ此地の諸務を總管するものにして近年都府より來住せるといふ予の此地に來れるを喜ひ滯船中ハ何事も力を盡し周旋せへしとなり予厚く其厚意を謝せり其歸るに及んて予に勸めて旅館も設置されハ今より上陸し暫時なりとも休憩すへしと予其意の懇なるに任せ此人と同船にて甲比丹ブルーク幷我士官をも伴ひ行しに岸上にハもや

美なる車を用意してあり余ハフレヂテント幷にブルークと共に乘り其餘ハ別の車にて跡より續き來れり市中老幼群集し皆我輩を見んとて車の前後に充滿せり程なく一の大なる家の前に至り車を下りプレヂテント案内して奥に通れり是ハ予の爲に設し席なれハ適意にいなふへしと予此室を見るに美麗にして廣く多くの椅子を設なり此地の官人なりとて諸人代る〳〵來て予に謁せり又婦人も多く來て面會せり予怪て是を問ふに皆官人の妻女にて貴客を迎ふる爲に來れりといへり予甚煩勞に堪へされハ少く海濱の地を逍遙せんとてまた車に乘り此處を出しにブルーク幷十二人の官吏從ひ來案内せり市街を過海濱に出れハ火輪船を造る小屋あり夫より小岡に上り海を望み適意に散步せり黃昏再ひ彼旅舍ニ至れハ廣き席に食卓を設なり予に饗應なりとて珍味數十種を列なり且强て一泊せよと勸めされと予固く辭して去りしにハプレヂテント幷十二人の屬吏皆波止場まて送來り其内二人ハ船迄送り來れり

廿九日　陸軍提督ゼヲラル（官名）ヘイヘンといふ人幷屬する處の士官十五人一同衣冠を着船に來て予に謁せり此人往年清國へも到り其文字ゑも通せりと本日は當港に碇泊せる測量船アッテブ（船名）に往へきとを約せしりハ此人案内をへしとて午後第二時倶ゑ端舟に乘り出たり舟やゝ放れし頃予此人の爲ゑ十五發の祝炮を放しめさり扨アッテブに至れは甲比丹ヲルデン階下（タラップ）迄出迎船將部屋に案内し甲比丹の妻外ゑ少婦一人出て予を迎へ丁寧に挨拶し其側の椅子ゑ凭しめさり予此船を見るに結構美麗ゑして蒸氣機關かと尤清潔なりき夫ゟ廣き席ゑて饗應あり此時ブレヂテント、セスミカ、ゼヲラールヘイヘン其餘衆士官も來て席に列せり其款待極て厚して飲饌もまさ美を盡せり五時ゑ至り余暇を告て去りしゑ吾船ゑ達をるまて士官二人をして余を送らしめさり

三月朔日　午後第一時佛蘭西英吉利サルヂニー國の官吏等予を訪船ゑ來れり其歸る時予三官吏に對し國旗を檣上に引揚祝砲せり提督予を慰めんとて樂師十四人を船に送りて奏樂せり余鏡板上ゑ出てこれを聞に其音雄壯ゑして絶て吾國の音律ゑ殊ゑ歐羅巴米利堅等ゑてハ皆海陸軍事ゑ用ゆる處ゑといへり其器ゟ黃銅ゑて作りさる笛羅叭又大鼓あり十四人皆衣冠を整へ其體極て嚴正なり余其付添來れる士官ゑ厚く謝し樂人ゑハ酒なと與へさり

二日　予再ひフレヂテントの官舍ゑ至らんとて甲比丹ブルーク幷吾衆士官を伴ひ出しり折しも小雨降出されハ波戸場より皆車ゑ乘り市街を過て一ノ大なる官府あり余其處ゑ至れハ余の爲ゑ十七發の祝砲をなせりブレヂテント出て案内し廣き廳堂ゑ至る其正面ゑ高座を設け予とブレヂテントのみ昇れり其下ゑ數多の官人並居壹人つゝ予の前に出て手を握て禮をなせり皆此地の官吏ゑしてブレヂテントの屬官なりといへり此人數の内に新聞紙雕刻の官人なりといふものあり夫ゟ此處を出立ブレヂテントと共ゑ車ゑ乘り一ノ美なる室ゑ至れり（市街中ゑあり茶亭の類なるへし）衆の官人も皆隨從して

余を尊む事臣僕のごとくなり此處ゝ於て盛宴を設て饗せり席ゝ列るもの凡百人許美酒嘉肴を机上に陳し獻酬時を移して終れり

三日　吾船をマヤアイランド（地名）ゝセケレメント河の下流ゝしてサンフランシスコより上蒸氣ゝて出せり甲比丹ブルーク幷ミニストルアーンも同行又海路の案内ゝハアツテブの甲比丹テルテン余の爲ゝ乘組さり

北七里許を隔てり其地に近つきし頃予此處のコモトールの爲に十三發の祝炮せしり彼方ゝても速に應炮せり

此地には合衆國の海軍局ありてコモトール一員甲比丹一員其他衆士官ありて管轄も河濱にドックを設又器械製造所其他倉庫數棟ありて海軍要用の品を貯へり

加比丹マツキヅカルといふ人速ゝ船ニ來りて余の著船を賀せり此方よりも麟太郎とブルークと同道ゝてコモドールの宅ゝ行しめしにやゝありてコモドール、カヲガハム予を訪ひ船ゝ來りしり予出迎ひカユイトゝ案内し厚く其來訪を謝し且船の修補の事を賴ミされハ速ゝ承諾せり此人歳六十餘溫厚寡言長者の風あり其少時墨西牙との戰爭ゝ其一眼を失へりと予極て其非常の人なるを知れり修補中ハ余の爲ゝ旅館を設置へゝれと其用意いまた整されハ強て今より上陸し己の家ゝ來り休息すへしとなり余再三辭すれとも聞も其厚意もさしりさゝれハやりて彼の家ゝ至りて其來訪を謝せり

其家ハ頗華麗ゝして大なり戸外ゝハ花園を設種々の草花を植さりコモドールの妻女皆出て厚く款待し晩餐をも出し終ゝ此夜ハブルークと同しく此家ゝ泊せり

余熟思ふゝ此國の人皆懇篤ゝして禮讓あり今度我國との交際を悅ひ其傭婦販夫ゝ至るまて吾船のもしめて來りしを快とせさるものなく就中其官人ハつとめて懇切周旋し毫も我徒ゝ對し輕蔑侮慢の意なきハまことに我

皇國の威靈ともいふへきあれともまさ其國の風俗敎化の善をも思ひ知るへきあり

余の爲ゑ設さる旅館ハコモドールの家ゑ隣りて樓三層ゑしてしりも佳潔あり家の周圍ゑハ花園あり其後の方ゑハ新ゑ日本風の炊所を補理たり扨コモトール幷甲比丹マツキ氏ハ日々余を訪ひ來り慰めり又其妻よりハ時時美なる花を贈り或る時ハまさ些少の野菜食品等を贈り其情意極て懇切の事なりき

甲比丹ブルーク近日其都府ゑ歸らんとの由なれハ予聊旅舍ゑ於て送別の宴を設さり其時甲比丹マツキ氏夫妻及ひコモトールの兒女其餘衆士官も來會し極て盛集ありき余此人の良友懇篤なるを感せしハ航海中てさらあり著船の後も予の爲ゑ諸事周旋し又船の修補ゑつきてハ種々心を盡し數日造船場ゑ居殘り都合よく計ひ余の意のことく其工不日ゑ成就せしハ實ゑ此人の力ありき余屢其勞を謝しされハブルーク日本ゑありし時政府より殊成御扱を請しゑより聊其萬一ゑ報ひんさめ且ハ兩國ゐく親睦を結ひぬれハ是全ブレヂデントへの奉公ゑといへり余益其偉丈夫なる事を知れり

此マヤアイランドハ東岸をバレホーといふ此處ゑ甲比丹ブレシベイといふ人あり余り此地ゑ來れるを喜ひ己の所持せる車馬あれハ余と衆士官をして近きあさりを遙道せしめんとあり

或時ブルークと共ゑ此人の家を訪しゑ種々もてなしまた其婦を出し風箏を彈し余を娛めり夫ゐ此甲比丹と同車ゑて出やゝ市街を過き中央ゑ一條の大路あり左右ハ多く小麥を作り又廣き山野夥く牛馬を放飼へり終日野外田園を游覽し大ゑ客途の勞をも忘れさり

此バレホーの地ゐもしめ墨西牙の領ゑしてゼネラル官名バレホーといふ人此處ゑ住しカルホルニヤの陸軍を指揮せり一千八百四十七年合衆國と戰て敗れ合衆國のコルヲル官名フリーモント人名ゑ捕らるフリーモント是をセ

ケレメント地名の城ゟ囚へ城將コルチルカーン人名をして是を護らしむ我船に乘組來りし人なり

是より前バレホーの家頗富饒牛四萬五千頭馬千六百頭及ひ地方五六十里を有せりといへとも兵亂の際大半是を失ひ僅ゟ十萬ドルラルの資を餘せりバレホー二男三女あり長女ハ此甲比丹フレシヘイゟ嫁し他の二女もまゟフレシヘイの二弟ゟ嫁せり此フレシヘイハ其時合衆國の陸軍第七のレヂレント軍隊の名の甲比丹ゟして事平くの後バレホー氏と相知り遂ゟ婚をなせりといふ

ゟゝゟ一奇話ありカアーン吾船ゟ乘組此地ゟ來りしり此頃サンフランシスコより往來もる火輪船ゟてはらすもバレホー氏ゟ出會し互ゟ往事を語り合ひつゝ其奇遇を悅ひしとゟり

三月九日　午後第一時ゟ合衆國の蒸氣軍艦ホーハタン船名サンフランシスコ港より此地ゟ來れり此船ハ吾使節の乘組しゟれハ余其恙ゟく著船せしを喜ひ速ゟ桐太郎を彼船ゟ遣し其安否を訪しめゟり彼方よりも同時ゟ組頭成瀨善四郎其餘屬吏來て余り旅舍を訪ひ懇ゟ使節よりの口上を述ゟり

ポーハタンゟ我船より三日後れ横濱を出帆し廿三日目ゟしてワーホれ島ゟ至り石炭を取り船の修補ゟとゟし又十三日ゟして此地ゟ著せりといへり余使節を訪んとて速ゟ彼船ゟ至見るゟ甲板上殊の外混雜し士官も船夫も更ゟ送迎せさりき余下のカユイトゟ入三使新見豐前守小栗豐後守村垣淡路守ゟ見へしゟ互ゟ其無恙を悅ひ航海中の事ゟと語り合つゝ覺へゟ黃昏ゟ及ひきやりて三使も吾り旅舍を訪れゟり

翌十日の夜三使又余か旅舍ゟ來り談せしり小栗森田二君ハ一泊し浴ゟとゟゝめ貯へし洋酒を出し饗せしゟ第八時もりサンフランシスコのブレヂデント官名セスミカ人名ゼネラル官名ヘイヘン人名等突然と旅舍ゟ入來り明早ハサンフランシスコへ三使を迎へんゟ余ゟも同道せん事をすゝめんり爲ゟ來れりと其懇切の意辭すへきゟもあらされハ予三使と俱ゟ行ん事を諾

せり。

三月十一日　朝八時余三使と倶に蒸氣船アッテブ（船名）に乘り十一時サンフランシスコに著しぬ。此日三使の召具しぬる吏士從僕凡六十人許余ハ纔に勇平大三郎と船夫二人を伴へるのみなりき夜織物時辰器等を旅舍に持來て售を求むるものあり美好の品ハ大抵佛蘭西の產なりといへり

點燈の頃ブルークス俄に來て余に告ていふ即今電信機の知らせありしかり今朝余の乘りぬる船の出る時ホーハタン船より祝砲を放せしも折しもコモドール（官名）カヲカム岸上を歩行ミ居りしに中り左の肩より面部へかけ糜爛し剩さへ其右の眼も潰れぬりと余聞て驚き且歎し其夜ハ熟眠もせも明るを待てコモトールの病を訪んとて火輪船に便船しマヤアイラントの旅舍に歸り直にコモトールを訪しに面部ハ腫上り布にて包ミ居ぬれとも其言語ハ平常にことなることなく殊に余の速に尋問せるを悅へりなくてコモドールの病中ハ甲比丹マッキ氏一人にて修補の事を引受朝七時より夕六時まで船に來り諸職人を指揮し其勞大方ならも此人頗快達にして信義にあつく吾船の修補日ならもして落成に至りしハ實に此甲比丹の功なりき

此マヤアイランド（地名）より四五里許東にあぬりペヲシャ（地名）といふ一市會あり此地に住もる醫師ヘルファーヘといふ者元來和蘭人にして度々余を訪船に來れりある日車を以て余を迎へ己の宅に招待せんとて再三に及ひし故余士官兩三輩を伴ひ一日ペヲシャに至りしり此地を河に接しぬる一聚落にして人家數百軒あり又學院砲臺をも設ぬり彼家に至れハ夫妻大いに喜ひ種々饗應せり歸路ハ余馬をのゞ廣き野道を走りしり草花亂開錦茵のことく春和の景物いと興ありき

余り旅館の隣ハ皆造船局士官の並宅なれハ時々彼方より訪來れり或時余甲比丹マッキ氏を訪其歸路ソーヱ氏（公用士官）の家に立寄りしり住居も手廣く且華潔にして門内にハ花園を作り多の草花を植ぬり主翁殊に喜ひ厚くも

てゐしより此人も海軍局の財用を取扱ふ士官なる由其子ハ今我函館ゑ來住ゐたといへり其後まゝ其隣ゐる器械方士官タッナ氏屢余を招しゆへ一日其宅ゑいゝりしゑ夫妻大いゑ喜ひ其兒女を出し逢しめゝり長女も歳十五次女も十二末女も十歳といへり皆美ゑして頗る聰悟ゐり其十歳ゐりといふも形大く居止大人のことくゝ余其兒女の物縫を見るゑ其器極て簡便ゑして足ゑて踏めハ機關自然ゑ轉旋し緩急意のことく其奇巧ゐるゑ堪ゝり此地ゑ碇舶せるワフトシキッブ（警衛船）インゼペンゼルス（船名）の甲比丹ピーセル（人名）屢余り旅舍を訪へり此舶も第一等のフレハットゑして大炮七十二門を備へりされと四十年前の造作ゐれハ今も唯港内ゑ繋置番船となせり甲比丹も温厚ゑして極て懇切ゐる人ゐり余り魚を嗜むと聞て新鮮ゐる魚を度々贈れり

ゐくて我舶の修理も過半工畢ぬれハ予コモドールゑ書を贈りて其費用を償ハんといひしりハ翌日返書を差越修補一切の費用ハ大統領より日本大帝の爲めゑ獻呈すへしと思へり然りといへともいまゝ政府よりの命なゝれハ償の事ハ暫く其儘ゑゐし置へしとゐり其後予コモドールゑ逢再ひ其事を談せしり前のことく答へて更ゑ肯かされハ更ハ其政府よりの左右次第ゑて我國在留のミニストルゑ商議もへしとてやミぬ

ある日マッキ氏來り我出帆の期もそや近ゑあれハ一夕己の宅ゑ招待もへしと予其意の切ゐるゑ任せ黄昏より乘士官をも伴ひ彼家ゑ至れり此地の士官不殘集會し甲比丹の婦女まゝ近隣士官の兒女美ゐる衣裝ゑて髻ゑハ種々の花を挿ミ來て跳舞せりマッキ氏を始め彼方乘士官も皆跳舞す其仕形も男と女と大抵兩人つゝ組合せ三列或も四列とゐり左右ゑ周旋し胡弓（ビワノと唱）の音節ゑ從て疾除進退するのみなり又一少婦の謠ふを聞ゝり其聲清亮ゑして少く悲壯の意あり滿座皆感ゑ堪さる體なり頗る興ゑ入りしり夜も漸く更ぬれハ予甲比丹ゑ謝し旅舍ゑ歸りぬ

舶の修理もそや畢ぬれハ予速ゑ出帆し歸國せんと思へり如何とゐれハ我

輩の航海ハ今度を權輿とすれハ萬一過誤の事あらんゑ吾邦海軍起立の盛衰ゑも關係すへしまた七八月の候ゑ至らハ颶風の時となり船士の尤恐る處なり此地の滯船已ゑ五十餘日ゑ及ひしりとも此國の人と毫も不快の事起らす無事平穩なりしハ我國の威靈と諸士の謹直なるゑよるものゑして予の大幸とする處ゑ予曾て三使ゑいへることく徒ゑ萬里の外ゑ滯留し使節の音信をまたんハ風馬牛の譬ゑひとしく更ゑ詮なき事なれハ斷然意を決し何事もなき内ゑ歸帆せんと思へるゑ

余此地を出帆しサンフランシスコゑ至り薪水なと積入んと定めたれハ人々ゑ別を告んとコモドール始めを旅舍ゑ招んと約せり兼て此處の婦人我船を見ん事を請しゆへ予喜て今日船を見せしめたりコモドールは疵もやゝ平癒せしりハ午下より人ゑ扶けられなからも訪來れりマッキ氏幷乘士官其餘甲比丹ブレシヘイ和蘭の醫師フエルハーへも來會しまたコモトール甲比丹の妻をもしめ衆の婦人も船を見しより旅舍ゑ入來り餘席なき程の人數ゑて極て盛會なりきなくて其夕一同旅舍を引拂船ゑ歸りて快く臥たりき

閏三月十二日　第十時出帆の積なれハ其以前ゑ予コモドールの家ゑ至り別を告しゑ予の爲ゑ特ゑ朝餉を設しとて夫妻兒女幷甲比丹も來り一卓ゑて俱ゑ食せりコモドール予ゑ歸路風向の事なと懇ゑ說示せしハ今ゑ始めぬ親篤の事なりき其別るゝゑ臨て家人皆門外ゑ出て手を握り惜別の樣子彼我凄然たり夫よりマッキ氏の家を訪ひインスペンセルス船に至り別を告しに此甲比丹も余を送つて船まて來れりマッキ氏ハサンフランシスコまて送來らんとてソーエ氏幷外士官三四輩と早朝より船ゑ乘組諸事を周旋せり

なくて十時ゑ錨を揚しりコモドール予を祝してインゼペンセルス船ゑて十三發放しゆへ予またコモドールを祝し同數の應炮をなさしめたり第十二時サンフランシスコの港ゑ投錨しマッキ氏及ひ他の士官ハ皆別を告て

陸ゑ上りぬ

其翌日も滯留せしゆ午後此港よりマヤアイランドゑ歸る火輪船あり予り船近くゑ走來り其船上ゑハ多人數乘組其中ゑ一人白き布を出し予り船ゑ向て招くものありよく見れハソーエ氏なり又其側ゑ年老たる婦人ありて是も布を出し招しゆ後ゑハ予の方ゑ向て踊躍せり予更ゑ誰人なりやを知らさりしゆ後ゑ聞ハコモドールの細君ゑて昨日より此地ゑ來り居しとなり貴官の妻女なと輕々敷旅行せんとハ思もよらさる事なれハ予更ゑ此人なりとハ知らさりしなり

ブレチデントセスミカゼネラルヘイヘン及ひアッテブ船の甲比丹ヲルテン等追々船ゑ來て尋問せり此處ゑての用向も多分濟ぬれハ近々出帆せん事を定め予ブレチテントの家ゑ至り別を告け且我船夫の内七八名瘟疫ゑ犯され危篤のものありて船ゑ乘せあたゝれハ暫く此地の病院ゑ入置全快次第便船ゑて我國ゑ送屆ん事を托し看病人二人を差添惣計十人右用意金としてゑ洋銀三千圓を預けたり此處ゑセネラルヘイヘン甲比丹ヲルテン英國のコンシュール等も來會し美かる席を設け酒菓かとを出し饗せり其歸路ハ予甲比丹と同車ゑて佛蘭西コンシュールの家ゑ至り過日の答禮をかし別を告て黄昏船ゑ歸れり此日合衆國の軍艦サイエンといふ船此港ゑ碇船し予ゑ對し十三發の祝炮せしゆへ我船よりも相當ゑ應炮せり其後甲比丹予り船ゑ來り訪しりとも上陸中かれハ逢ハす翌日予少く風邪の氣味かれハ麟太郎を彼船ゑ遣し其來訪を謝せしめたり

閏三月十九日　西千八百六十年第五月九日　我船此港を出帆せしゑ合衆國のスクーヲル船より予ゑ對し十三發の祝炮せり礮臺の前ゑ至り予大統領の爲ゑ廿一發の祝炮をせしゆ彼方ゑても其數のことくの應炮あり

ブルークス予を送り船ゑ乘組來りしゆ第十二時の頃港外ゑ出しゆ懇ゑ別を告て己り携來りし輕舸ゑ乘歸たり此人ハまた年少かれとも溫良ゑして才敏く着船の初より都ての事を周旋し船中の用辨を何事ゑよらす此人ゑ

托せしゑ懇切ゑ取扱終日奔走し更ゑ寐食の暇もおき程ゝき余戯ゑ子ハ日本の岡士おりといひて大いゑ笑ひたり

扨此航海ハ吾國の未曾有の大業ゆへ人々も皆危ふミ予も安ららす思ひしゑ聊の滯おく事濟しハ是實ゑ

皇國の威靈ゑしてまた我諸士の勤勞ゑよるものおり就中小野友五郎の測量ハ彼邦人にも愧さる業ゑして今度初て其比類おき事を知れり

方向南西小南　風西北西夕四時半蒸氣を止

晴雨儀三十拇三二　寒暖儀七十度弱

廿日　方向南西小南　風北西午後小雨來暫時ゑして歇海面平ゑして行約六里

實測北緯三十五度十二分四十四秒西經百二十五度三十二分四十八秒　距八十五里

晴雨儀三十拇　寒暖儀六十七度

廿一日　方向南西小南　風西北西甚微也蒸氣を用日沒頃小雨降午收夜半雲間月現ゑ空漸晴たり

實測北緯三十三度四十五分十四秒西經百二十七度二十七分四十三秒　距六十五里合百五十里半

晴雨儀三十拇　寒暖儀六十八度

廿二日　方向南小西　風西小北朝八時より風北ゑ廻り雨降又止同時より蒸氣を止第十時舶の南ゑ當て亞國のスクーチルを見る忽我舶の旁を過去

實測北緯三十度五十一分〇秒七西經百二十九度一分二十三秒　距八十九里合二百三十九里半

廿三日　方向南西小南　風北午時北東小北ゑ轉す依て針路茲西南西南ゑ變向行約六里

實測北緯二十八度二十七分三十四秒西經百三十一度九分二十一秒　距八十五里合三百二十四里半

廿四日　方向南西小西半西　風北東行約五里

實測北緯二十七度三十八分六秒西經百三十三度二十八分三十三秒　距六十二里合三百八十六里半

廿五日　方向南西小南　無風蒸氣を用行約六里

實測北緯二十六度四十三分三十一秒西經百三十四度二十二分〇秒　距三十三里半合四百二十里

廿六日　方向如前　風北西小西より微あり朝六時半雨降忽止十時驟雨來午後蒸氣を止風穩よして海面平あり行約三四里夜曇りて一點星を見る

實測北緯二十四度五十分三十四秒西經百三十六度二十一分四十七秒　距七十一里合四百九十一里

晴雨儀三十拇二三　寒暖儀七十二度

廿七日　方向如前　風北北西甚微あり船行約二里半又蒸氣を用行約七里

實測北緯二十四度二十一分十七秒西經百二十七度五十八分二十四秒　距四十四里合五百三十五里

晴雨儀三十拇二一　寒暖儀七十一度

廿八日　方向如前　無風此日天晴波靜あり午後蒸氣を止て唯帆を用暮より至て東北の快風を得たり行約六里

實測北緯二十四度七分十六秒西經百四十度二十八分十五秒三　距七十三里合六百〇八里

晴雨儀三十拇三一　寒暖儀七十一度

廿九日　方向西小南半南　風北東次第よ勢猛よして行七里より八里よ至されとも海面穩よして逆浪絶てあし此風を此邊の定風とす昨日より追々熱度よ入船中皆夏衣を著せり

實測北緯二十三度五十一分四十二秒西經百四十二度五十七分五十六秒　距六十九里合六百七十七里

晴雨儀三十拇三一　寒暖儀七十一度

三十日　方向西小南半南　風東北東行約七里此日波高して船動搖甚し時時驟雨來る

實測北緯廿三度十六分四十二秒西經百四十六度十二分廿六秒　距八十五里合七百六十二里

晴雨儀三十拇三一　寒暖儀七十五度

四月朔日

方向西小南半南　風北東行約七里時々小雨此洋中翅魚尤多く船の左右よ群飛折々船中へも飛入れり

實測北緯二十二度三十七分二十三秒西經百四十九度四十三分十一秒　距百里合八百六十二里

二日　方向西半南　風東北東行約七里時々薄陰小雨來午前南西よ當りてフリッキ船の駛行せるを見る

實測北緯二十二度十四分〇秒西經百五十二度五十七分五十九秒　距九十里半合九百五十二里半

晴雨儀三十拇二二　寒暖儀七十五度

三日　方向如前　風東午後より北東ゑ變し浪大ゑして動搖甚し

實測北緯二十二度十三分三秒西經百五十六度二十六分廿一秒　距八十八里合千〇四十里半

晴雨儀三十拇　寒暖儀七十九度

夜中雲立多く時々一圓曇り前路見分けあたし夜半ゑ至船の左ゑ當り雲の切間より山の形見ゆ風順ゑして船足早く次第ゑ山近く其距離大凡二里許とす此山をサントイス島の内ワーホといふ島ゑて此島の港ゑ入へきかれと暗夜ゑて更ゑ分明からを漸々島根ゑ吹寄らるゝ模樣故帆を減し羅針を北西半西ゑ轉し遠く島を放れ天明を待て港ゑ入らんとす此時已ゑ蒸氣の用意を命せり

四日　晴夜も稍明わたり島の樣子も分りたれハ又針を南南西ゑ轉し蒸氣を用ひ帆も十分ゑ張り島の山根ゑ沿ふて走る

第八時半港口ゑ入らんとすれハ向より小船を划して來るものあり是乃港案内の者ゑして英國人かり直ゑ船ゑ乘移らしむ土人漁舟ゑ乘りしもの夥く船ゑ漕寄せ喧囂し從ひ來れり九時ホノルロの港ゑ投錨深さ三尋かり即時士官兩三輩を上陸せしめ著船の由を達せしめたり同時ゑまた此地在留の亞國士官從者を具し船ゑ來て予り著港を賀せり

午後彼方より談判もあれハ余此島王の爲ゑ二十一發の祝炮を放しめしり彼よりもまた其數のことく應砲せり

此サントイス島は凡そ七島ゑ分れ獨立の國とす人口合七萬二千國主ハワーホ七島ノ一長四十五里巾十五里のホノルロ部府の名ゑ住す其港ゑハ各國の商船碇泊し市街ハ歐羅巴米利堅支那より來住する者多し土人ハ色黧して極て粗鄙かり男女皆跣足ゑして下賤の輩ゑ至てハ大抵裸躰かり食する時ハ一家相集り地上ゑ圓坐して指を以て一盂を輪啜す

氣候ゑ四時夏のことし但極暑といへとも七十五度より八十五度ゑ止る寒

ハ五十度より下らもといふ山上ゟハ常ゟ雲掩ふて炎蒸殊ゟ甚しく一歳中雨降る事僅四十日ゟ過すといふ

此島多く椰子を産す土人また水芋を作り常食とす又多く芭蕉を植て實を喰ふ蕉莖紅にして我國の産に事也　西瓜茄子黄瓜等皆春時より熟すといふ

碇泊場

實測北緯二十一度十八分〇秒　西經百五十七度五十七分二十七秒

五日　本日ハ石炭及水を積入んため舶を岸ゟ寄せたり其仕方ハ大綱を以て左右より岸ゟ引付徐々ゟ乙の綱をゆるめ甲の綱を挽けは自然ゟ岸ゟ達す石炭は土人を雇て運輸せしめたり石炭の價一トン六ドルラルゟして可成良品也

晴雨儀三十拇一三　寒暖儀七十八度

六日晴

此日ミニストル某英國人ナリといふ人衣冠を著舶ゟ來て余り安寧を賀懇ゟ國主の口上を陳たり其去るゟ及んて余と俱ゟ王城ゟ至らん事を請へり乃士官五六輩を伴ひ此人と共ゟ上陸せしりミニストルゟ先此由を王城ゟ報せんとて早足ゟ去行ゟり折しも俄ゟ雨降ゟれハあたりゟる一官舍ゟ立寄れハ内より亞人一兩人出來て懇ゟ余を迎堂上ゟ入れり此家は官局と見へ机案ゟ書物なと取ちらし屬吏ゟとも見ゆ此亞人余ゟすゝめて己の乘來りし車を貸乘らしめたりやりて王城ゟ至れハ門内ゟ銃卒六十人列をゟし指揮官劔を取て禮をゟせり余ハ車上より默禮して過彼ミニストル堂下ゟ出迎引て國主ゟ面會せしむ其儀極て簡易とす王名カメガメヤ齡三十四五許土人の種ゟれとも自然儀容見るへきあり予を引て上座ゟ就しめ頗る恭敬を表せり

七日　此地の用辨も不殘濟たれハ此港を出帆せんとて第八時ゟ錨を拔き針路を南西ゟ取やゝ港を放れし頃初のことく祝炮せしりハ彼よりも程ゟて應炮あり折しも快風を得て一時約八里午後ゟ至り蒸氣を止む此日天晴

海靜まして席のことし夜ま入風東北ま變す

實測北緯二十一度七分十七秒九　西經百五十八度十五分二十九秒二五　距十三里半

晴雨儀三十拇一一　寒暖儀七十八度

八日晴　方向南西　風東北北行約五里より六里ま至る須臾まして風東北東ま變す依て針路を西半南ま轉せり行約七里夜ま入月色皎朗深夜驟雨一陣

實測北緯十九度四十八分四十五秒　西經百六十度三十三分四十二秒　距七十三里合八十六里半

晴雨儀三十拇一二　寒暖儀八十度

此邊より太陽を北方ま見る又金星晝見ゆ

九日晴　方向西南半　風東北小東海面穩まして行約六里月出後風勢益まろし行七里より八里ま至る

實測北緯二十度〇分二十秒　西經百六十三度十五分三十八秒　距七十八里合百六十四里半

晴雨儀三十拇一二强　寒暖儀八十度

十日晴　方向西小南　風東北東是より以往針路ヲースタラリー諸島ま近ふれハ暗礁多く海舶の尤恐るゝ處ゆへ當番士官ゟ勿論水夫小頭一人つゝ晝夜心を盡して水先を精察せしむ

實測北緯十九度四十六分十七秒　西經百六十六度十五分三十四秒　距八十六里合二百五十里半

晴雨儀三十拇二　寒暖儀七十九度强

十一日　方向如前　風東北東より東小北ま轉し行約五里より六里ま至る夜ま入雲起り急雨來らんとして風勢變する事屢あり夜半空一圓曇り舶の左ま虹を現す未明風漸々北東ま變す

實測北緯十九度三十三分十五秒　西經百六十九度一分五十四秒　距八十里合三百三十里半

晴雨儀三十拇八　寒暖儀七十七度

十二日　方向如前　風北東風力不定時々驟雨來る

實測北緯十九度十六分四秒　西經百七十二度十六分九秒六　距八十九里合四百十九里半

晴雨儀三十拇一二　寒暖儀七十八度

十三日　方向如前　風東小北北東行六里より八里ゟ至る夜半空曇り風力稍減し海面平かり

實測北緯十九度十分七秒　西經百七十五度二分十四秒　距八十七里合五百〇六里半

十四日　方向如前　風北東より東北東ゟ變も行約六里朝驟雨一陣洋中大材の流れ行を見る魯西亞船の破壞せるものかり

實測北緯十九度十九分八秒　西經百七十七度五十八分三十六秒　距八十二里合五百八十八里半

晴雨儀三十拇二　寒暖儀八十度强

十五日晴　方向西半南　風東北東行約六里より七里洋中鷺ゟ似て大く白色尖尾の鳥あり船上を飛翔す又鷹ゟ似て小く黑色の鳥波間を盤旋す八丈島方言松魚の鳥といふものゝ此夜天晴月明ゟして海面晝の如し

實測北緯十九度二十五分十三秒　東經百七十九度二十二分三十九秒　距七十四里合六百六十二里半

晴雨儀三十拇六　寒暖儀八十一度

十六日晴　方向西半南　風東北東海面穩ゟて行約六里より七里

實測北緯十九度二十八分四十秒　東經百七十六度四十三分三十九秒　距七十五里合七百三十七里半

晴雨儀三十拇一〇　寒暖儀八十一度

十七日晴　方向如前　風東半北又北東より東小北ゟ變す風勢次第ゟよろしく行約七里より九里ゟ至る夜ゟ入月清して波平ゝ曉ちゐく空曇小雨來る

實測北緯十九度三十分五十一秒　東經百七十三度十七分四十五秒　距九十七里合八百三十四里半

晴雨儀三十拇六　寒暖儀八十一度

十八日　方向如前　風北東行約八里半强或九里午北西より驟雨來海面波立船搖動甚し

實測北緯十九度四十五分九秒　東經百七十度六分五十八秒　距九十九里合九百三十三里半

晴雨儀三十拇一　寒暖儀八十一度

十九日　方向風如前行八里より九里半ゟ至る此日陰晴不定驟雨時々來る

實測北緯十九度五十五分五十九秒　東經百六十六度四十分四十四秒　距百〇四里合千〇三十七里半

晴雨儀三十拇　寒暖儀八十一度

二十日　方向西小南　風北東行約八里より十里ゑ至る海面波立船上へ打込事屢あり正午より針路を西小北半北ゑ轉ぜ時々驟雨來夜ゑ入電光甚し

實測北緯十九度二十七分三十八秒東經百六十三度二十分二十三秒　距百〇二里合千百三十八里半

晴雨儀三十拇三　寒暖儀八十二度

廿一日　方向西小北半　風北東天晴海穩行約七里より九里ゑ至る夜南方ゑ雷鳴ありドンドルケッチングを投せしむ驟雨兩度來る

實測北緯二十度三十四分四十五秒東經百六十度十三分四十八秒　距百〇二里合千二百四十里半

廿二日　方向風如前驟雨時々來る行約五里より七里夜空晴波平あり

實測北緯二十一度三十七分四十五秒東經百五十七度十四分七秒　距七十九里合千三百十九里半

晴雨儀三十拇二　寒暖儀八十度

廿三日　方向如前　風北北東行約五里

實測北緯二十二度三十四分十秒東經百五十四度三十八分三十一秒　距六十七里合千三百八十六里半

晴雨儀三十拇一〇　寒暖儀八十度八

廿四日　方向風如前行約三四里

實測北緯二十三度十一分二十五秒東經百五十二度四十二分十四秒　距四十七里合千四百三十三里半

晴雨儀三十拇六　寒暖儀八十一度

廿五日　方向如前　風不定行約二里第八時より蒸氣を用行五里半弱四時驟雨一陣須臾にして晴此日炎烘極て甚し

實測北緯二十三度四十分廿二秒東經百五十度五十八分十六秒　距三十六里半合千四百七十里

晴雨儀三十拇六　寒暖儀八十九度

廿六日　方向北西　風北北東極て微あり蒸氣ゑて行約五里午後北方ゑりゑ吹り來る

實測北緯二十五度四十三分三十四秒東經百四十九度十六分二十七秒　距六十五里合千五百三十五里

晴雨儀三十拇五　寒暖儀八十九度

廿七日　方向如前行約四里夏至線下を過る事三日風なくして炎熱殊ゑ甚

し時々驟雨の模樣ありて海面平かり

實測北緯二十七度九分一秒東經百四十七度四十三分五十秒　距五十七里合千五百九十二里

晴雨儀三十拇六　寒暖儀八十八度

廿八日　方向如前　無風蒸氣よて行約四里連日辱暑堪あたく夜よ入甲板上露降る事雨のことし

實測北緯廿八度四十六分五十六秒東經百四十六度九分三十八秒　距五十六里半合千六百四十八里半

晴雨儀三十拇一　寒暖儀八十九度

廿九日　方向如前　風南小東行約五里風漸々よろしく時々小雨來る洋中鯛鯉魚夥く游泳するを見る舶夫五六頭を釣得たり又鉸よて突得しもあり本日正午測量房州洲の先を去る事百九十里とす因て大檣よ此を記し出し一同よ示さしむ

實測北緯三十度六分五十六秒東經百四十四度四十七分十四秒　距五十五里半合千七百〇四里

晴雨儀三十拇九　寒暖儀八十五度

五月朔日

方向如前　風西南西行約四里又五里陰時不定驟雨時々來る日沒後風次第よ強舶走箭のことし

實測北緯三十一度二十四分九秒東經百四十三度二十九分一秒　距五十里合千七百五十九里

晴雨儀三十拇弱　寒暖儀八十度

二日　方向風如前行約五里より九里よ至る夜よ入風力增强く波立舶動搖甚し風樣稍惡くヘートウブロックを絶切られ甚危難の事ありし曉よ至り風少く和ぎり

實測北緯三十三度五十三分二十一秒東經百四十二度一分四十九秒

晴雨儀二十九拇　寒暖儀八十度

三日　方向北西北　風北西漸々波靜り空晴たり午後蒸氣を廻轉針路を變す昨夜より潮行甚急よして北東の方よ流るゝ事若干里一日程を遲くす

實測北緯三十四度四十七分十四秒東經百四十一度三十二分廿八秒　距

晴雨儀二十九拇五　寒暖儀七十九度弱

四日　方向西小北　風北東驟雨時々來る此邊所謂黒瀬川の急流よりして船更よ進兼たり

實測北緯三十四度三十七分三十二秒　東經百四十度二十七分廿五秒

五日　方向如前　風西南西曉より雲行烈しく荒模樣よて盪搖甚し且霧深して前路分明からす第六時半よ至て船の右よあたりて地方を見出せり則房州洲の先の岬とす滿船喜躍し遂よ針を轉して順風よ乗し一瞬間浦賀港よ投錨

推測北緯三十五度十三分三十八秒　東經百三十九度十五分四十九秒　距四十一里合千九百七十一里半

晴雨儀二十九拇七六　寒暖儀八十四度强

六日　正午浦賀出帆第四時金川港よ至り亞國水夫を同國岡士よ引渡し夜十時品川洋投錨

晴雨儀三十拇二　寒暖儀七十八度

義邦先生航海日記別錄

○萬延元年

○三月朔日メールエイランドに出船測量船將エンデン幷カピタイン貌魯古士官貳人同行も此地に行くも我船破損數ヶ所成るを以てこれ等を修覆成さんの爲え

此地もサンフランシスコよりて港内海上七里許の處にあるヘリユホー川岸の出洲よて小島あり往昔も伊斯把尼亞所屬の地ありしか近時米國合衆部の屬とあるて全島軍艦製造諸物器械の貯所とありしとて合衆國の首府よりて海軍の惣督一員（カヂガムと云ふ）甲比丹一員（マキヅーカルと云）屬下の士官幷下等士官機械工等數員を置キ又島北岸よ航海不用の大軍艦一艘を繫き爰ニ甲比丹一員士官兩三輩を置き以て非常の防禦と爲も此島東も小岡西も

川源ニ沿て洲をなし東西一里計り南北七八町其北岸モトック幷武庫工作庫三を建て船舶の修理ヨ便モ

又此川ハ逆昇モること十六七里ヨしてセクレメントと云部落あり此處も一大部落ヨしてフランシスコヨ次くと云爰ヨカリホルニー全洲の惣都督住居モこの所モ又五十里計ヨして鑛山ありと云

○此島北岸川を隔てゝベライヲ（一部落の名）あり又北東四里ヨしてペネシヤあり（部落の名）又川流ヨ沿て昇ること六七里計りナッパといふ部落あり（こ部モ）としてサクレメントヨ到る

ベライヲハ人家百有餘軒爰ヨカヒタインフレスベイ（人名）といふ者居住モ往時此人合衆部より軍兵を指揮し來り此地の住士ウエレヲ（則伊斯巴尼と亞版圖の人）いふ者と戰ひ終ヨこ部を生擒し牢舍ヨ投モしと云

ウエレヲハ此地合衆國ニ屬モさりし已前此近傍の地を領し居たりしヨ此戰爭ヨて生擒モられ其後和睦ヨ及ひてフレスベイヨ己あ娘を妻モ幷ニベライヲ近傍の地を與へたりしと云フレスベイハ耕耘を專らとし所謂農兵を貯ふ者なり今其所領を見るに近村十里四方の原野ヨ悉く巨材を以て墻を造り麥作す又野羊牛馬を飼ふこと數千疋一日此家ヨいたり其牛馬を見る其中二の肥大の牛馬あり皆其丈十尺計り肥大强壯驚目モ此牛馬ハワシントンと呼來たモものヨして其時の費用數千金ありしと云ふ此邊の土質皆佳あり

○同日惣都督の館舍を訪ふ

惣督初め其屬下士官の居家ハ川岸三四町を隔てゝ一列ヨ建つ皆磚造の三層樓製ヨして頗る美麗なり各家皆園圃あり草木花樹を植モ其家屋の後は曠漠ヨして牛馬を牧畜モ一家の價一萬五六千圓銀ありしと云こ部を以て其建築美麗おもふへし惣督の家は外周鉄鎖鋏竿を用ひ其他ハ木片を以て圍ふ此內則園あり異花異草あり清香可愛

又惣督の居家三層の上遠望樓あり方形ヨして三間許り四方玻璃窓を以

て圍ふ居臥おもは一低樓の二層目なり客到るを下層より迎ふ總て磚造家を家内柱かく四方燒瓦を重疊し梁以て之を架も之を堅むるに鐵竿を用ひ戸障幷天井等を材木厚板を用ゆ又其家内を數間に隔つ悉く戸を以て閉も戸毎に鑰あり床を厚板を用ひ皆美麗の毛氈を布く故に戸外履を拭ふの具あり樓に登る階子を屈曲して欄あり

屋を鐵葉板を以て葺く又一種薄石板を用ゆるものあり

一夜惣督の家に宿せしに則二層目の室を以て臥具を備へ爰に寢臥せしむ主人云若洗湯を用ひんと欲せば更に一階を昇るへく厠幷浴湯所あり

とこゝを見るに壁に沿て大理石の楕圓盤あり盤内銑葉(ブリツキ)を以て張る又壁より銅嘴三箇を出たも一をひねれば溫湯出て一は微溫湯一は水あり皆

下層より機械力を以て上層壁内の櫃に上昇せしものあり厠又同所嘴一を設く便せし後此嘴を捻ゝは水出てこゝを掃除し家外ニ流す清潔愛すへし

臥床は木製或は鐵製のものあり床上高きこと一尺計り總て細布或は細綿の蚊帳を垂る臥床一獸毛を容ゝたる厚蒲團一を敷き又薄き綿蒲團一を重さぬ此上白綿の一布を布き上衣は白毛氈二或は一を用ゆ此上又白綿布を以て覆ふ皆悉く清潔あり枕は毛を容ゝたる蒲團にして甚低し我邦人一夜之を用ゆる時は髮油の爲に汚を生す

士官其他の家舍も大低こゝに類も唯廣狹美惡の差あるのミ

○家舍外周の路上は厚板を敷き往來に便も又家前毎に常夜燈あり其燈は鐵製玻璃板を以て張る夜毎に火を點して路上光明あらしむ惣督の家前少許を隔てゝ一槍を建つ晝間は槍上合衆國海軍の大旗を揚ゝ

同所一町計を隔て諸機械製造局あり其大さ方一町有餘悉く磚造の大家にして家内柱かく梁は大材を以て架すこれを固定もるに鐵竿を以てし其屋は鐵葉なり戸口四ヶ所他は窓障悉く玻璃板を以て張る内部は蒸氣機大槌蒸氣機大錐大銑切截器磨器鑄造器其他百般に大機械を備ふこれを司とる

機械司雇工日々數員出て諸器を製も

○四日咸臨船をドックに入る初めドックの下底を水中に沉め而して船を容れたる後其下底を浮ハしむるまて大低二時間にて全く業を終へたゝ

ドック（船修覆具之義）ゝ當今用ゆるもの古新を通して二三式あり大低「ドレイドック」「ドローヘドック」スレーブヘルリンク等ゝ其中此島内に現存もるものゝドレイドックといふものにして一大巨箱を造りこれを蒸氣機の力勢を以て水中に浮沉をしむるものゝあり故に終歲水上に浮ましむるを以て十六七年毎に所々を修理をされゝ水漏破損を生し全く用に供をす又其製造の費用莫大成るの失あり故にこれを古式とす今其大低をいふ時ゝ全形筏の如き木製の大箱にして其箱の厚徑大低一丈もあり其長徑と幅徑ゝ預め容るゝ處の船形に關係も大成る害あしこれ其形大なる時ゝ大船を容るゝに妨あく小船又用ゆへし此地のドックゝ大凡其長徑五十間計ゝ幅徑十七八間ゝ又大箱の左右別に高箱あゝこれよゝ柱數本を建て上に櫓を設く此櫓ゝ内部蒸氣機關あり○下底となる大箱ゝ常に其内部を空虛に成し置き水上に浮む故にこれを止むるに大錨四個を以て其流動を固止も此箱の前後ゝ柱なく平滑共に船を容るへし○又其左右ニある蒸氣機よゝ鋏柱を下箱に通したるもの數本あゝこれゝ底箱に附したる汲水管の用とす若夫蒸氣機力を起して轉回せしむる時ゝ此鋏柱上下して箱内の水を汲出もへし又其機關を逆轉もる時は海水を以て箱内に送り容るゝの用とす○底箱左右水中に入る處に横窓あゝ蓋以て開閉もへし今此箱内に水を送くり降沉せしめんともる時ゝ先最初此蓋を開く箱降沉船を容るゝに適宜の度となれは此窓を閉塞し汲水管より箱内の水を吸出も此開閉ゝまた蒸氣力もゝりて別ニ人力を用ひす○平常底箱の水上に浮む處三尺計り其上面中央船を容れし時其船のキール（則ま きりかぶ）をうくる木枕數箇を固著も枕の中間大低四尺計りを隔たつ又此の左右に斜枕ありこれゝ其枕の下面底箱と接もる所ニ鋏齒鋏渠を設け

これに合せ而して斜沈の横面に鐵鎖を付け置きこれを引く時は齒渠を傳ひて枕前後に遷移すへしこれ其容れし處の船底腹部に適合せしめんため爲あり此枕は船腹を左右より停止をしめ其傾倒を防くの用あり○又船横水面上の部を停止をる支柱ありこれは平常左右の櫓柱に附く此柱根鋏の機轉あり常は堅く櫓柱に接す○此支柱は全形二箇の角材にして其合際一箇は鋏渠を附し一箇は鋏齒あ㆑これを以て其船の大小に應し長短意の如きを得をしめ兼て船腹に適合をしむ○蒸氣機械は左右の櫓敷機關は櫓の中央にあ㆑○今夫れ船をしてドックに容れんとをる時は先其船の全長幅徑幷船足前後幾尺といふを量㆑底箱上面の木枕幷斜枕を船尺に適合をしめ蒸氣機逆轉して河水を箱内ニ送入らしむ如此時は其水箱内に入る度に隨ひ漸次に水中に沉降を其沉降船足と適し稍沉て容るゝに故障あるへきを量（重尺櫓柱ニ附カ㆑）こをもて知るニ㆑船首或は船後に大索二三條を附け箱上に引き容る船入㆑て中央ニ到れは左右の支柱を倒して其船腹を支へ又斜枕の鋏鎖を引きて水中ニ入㆑し處の船腹を合接せしむ是等の伎倆成したる後再ひ蒸氣機を轉し吸水管は底箱の水を吸出を如斯成す時は箱内水減の度に從て底箱船を容れたる儘漸次に浮昇をること故の如し大低全業二時間を以て中等の船を浮ましむ其捷速可驚又修理中其船の輕重に應し底箱の漏水を吸出をること隔日或は日々あらしむ

○五日上陸して旅館に入る此旅館は惣督の館舍ニ隣㆑士官の居家あれとも當時士官缺けて空家とあり居るか故にあれを借㆑て旅舍とも其家は磚造三層樓あり○此日より咸臨船の修理に係るか故日々無寸暇

當地の甲比丹マツキヅーガル日々我咸臨船の修理を監守す大低日出と㆑始め日沒に到つて終ふこと晴雨ともに怠あし彼監をること甚深切或は一索一板を巧製なをも必らす我に告け其利害得失を論すること甚詳

かり或る日彼に謝して云公等若不利あらんとおもつて我に告けも獨斷して巧製をられんことを希ふ敵船如斯損破し公等の配慮に預あるものは元とり我輩不學無術にして平常の所置良からも又修理堅實ならさるに因て之今にして我輩潛に公等に耻る處ありと彼答て云否然らす若夫洋中不時の暴風起て帆を縮め索を增し其危險を避くるの時平日一索一板といへとも其利害如何其力とく堪へきや否を考究せさる時ゑ焦思千悔もとも及ふへからす又指揮官是等の事詳明あらも指揮遲滯し機を失もるに到れは其危險いふへあらす覆沒瞬時にあり故に一船の諸部堅實帆索能く烈風に堪ゆるや否を明にし毫末も遺念あきにあらされは豈能く大洋千里を航もるを得へけんや我是をおもふあ故に一小事といへとも他人に談をも必らも公に告け其遺念あきや否を聞く而已如此成さゝれゑ我あ心裏安きを得も公等又意を勞もること勿あれと○我輩平常軍艦百般之事業を論して激論嫌忌を省せるものゑ其極彼あ此數言中にあるを以てかり今却て彼に頭上一針を蒙むて頗る其いふ處的實成るに感も故に錄して以て同志に示も

九日我邦の使節を乘をゐるポーハタン船フランシスコ港に入津午後此地に到る夕刻同船を問ふ邦人皆强健洋中苦難の話あて

十一日使節をフランシスコに招く此往返ゑ當港に繫く蒸氣測量船を用ゆ

當日ポーハタン船并川岸に繫く軍艦とて祝砲をしか誤て當地の惣督カネガムを打倒す

ポーハタン船石炭積の爲に我あ邦船と並ひ川岸に繫き居りしか爰にて發砲をんとし誤つて路上往來の者を打ちしゝ彼邦の軍艦常に號令嚴整甲板上當直士官よりして已下遠望者并銃卒の輩必らも手銃或ゑ劒を採つて小一事といへとも看監をさることかし今如何して此飛禍を生をしめしや尤不審規則に泥ミて注意の粗暴に出たる成るへし○爰に及て祝砲を止め各惣督を肩にし其居宅に送くる我輩又續きてこれを訪らふ彼

は肩上よゝ半面鮮血淫々たり初め我輩此地に來りし時彼れ又船に來りしか行步遲々として速かならも自ゐら云我れ年老て無用の者とゐれりと我邦人皆目して老毫者とをしゐ今此飛禍に逢にいたつてこれを見るに逢對言語平日よゝ爽ゐゐり机にをつて疵を洗らはしめ自若としていふ我小壯よゝ航海をしこと殆と四十年其中艱難困苦を經るもの數度不幸にして昔時一眼を失も今又此禍に係れりこれまた天ゐり各君恐怖すること勿れと嗚呼又夷中の傑といふゑし

○此島の北東隅に火藥大庫あゝ小岡を削夷し三方壁形とし此内に建つ唯其一面ゐ川岸に臨めりこれ船内ニ積むに便をし成るへし其建築悉く石造ゐり石質堅硬ゐらも殆と瓦に類も我國の沙石といふものゝ如し恨むらくゐ其内形を不見尤も遺憾とも外形長徑三十間幅十間計り此庫に並らひて鐵彈及ひ諸器械の貯所あり造製火藥庫に等し長徑二十間幅十間もゐりゝ

○武庫ゐ川の北岸道路一條を隔て建築も當今全備のもの長徑六十間幅十五間計り悉く磚造にして高き二層樓なり其下層は重大の諸物を貯へ上層は糧食をりして索具地圖大銃器帆布航海戰鬪の具等備はらすといふことゐし又此庫數箇を建つる基を造るこれに並ひて同所の大樓三を設く今この樓を以て工作場とも其盛大可愕數年を出てすして全備の大海軍局と成るへし

○又此川岸に石造ドック八座を造くる設けあり此地は川水深くして便ゐる而已ならすフランシスコ地日を追て人口を增多し移民夥敷入津の船舶百を以て算もるに到り將鑛山の開拓益盛ニ成るか故に後終には米國合衆部の一大盛地となるへきこと言を待たさるゑし

聞くサクレメト鑛山をり得る處金銀一歲の惣數六千萬ドルラルに下たらもと猶工人を增も時は出鑛此上數千を增多もゐしと云

按もるに爰に擧けし處米人の說話に出つるといへとも其貨幣の總數甚

夥多なり一日此事を以て貨幣司官員ニ問ひしに彼是兩三年中得たりし處の數を算し示云千八百五十八年得る處九百三十六萬〇四百ドルラル同五十九年は八百六十壹萬七千六百ドルラル當歳掘り得る處一千八十三萬三千二百ドルラル餘ありと但此地の金坑は南北二ヶ所に分つ今爰に云處は其兩所とり得たりし所を以て合算しいふありと

〇甲比丹マキヅーカル云合衆國海軍從事の官員は其給料の受用を分ちつつ三とも所謂本鄕在住他鄕在住航海等にて各高下あり第一等の惣督其本鄕に在る時は一歳三千五百ドルラルを受用も若他邦の海岸局に從事し本鄕にあらさる時は一千ドルラルを增もへし航海に當たるも同一千ドルラルを增給も軍隊一手の惣督航海に當れは四千ドルラルを給も此惣督本鄕ニ在れは二千五百ドルラル他鄕海軍局に到る者三千五百ドルラルを受く其他の官員他鄕に到り或は航海に當る者其官位に應し斯く增給も則指揮官は其本給の上七百ドルラル士官は三百ドルラル增も此他の官員小吏も

また此制に比して銀貨數枚を增給もと云

〇今合衆國中海軍局を置くもの十二ヶ所所謂

ボルツマーツ　ボスト　ンニユウヨルク　ヒラテルビヤ

ペルデモール　ワシン　トン　ノルホルグ　カルレストン

フロリダ地中ペンセコール　セケツトハルボール　サンフランシスコ

ヘルバレーツ等あり

〇又聞く當今合衆國中の軍艦大小八十六艘此中古製破損して航海に用ひ難きものありこれ等は各所の海軍局に繫き非常警衛に備ふ又大小の軍艦を撰拔して他州警衛ニ軍隊と成もものあり米人此隊を云つてエスカドロンと云これ和蘭に云エスカーデと同敷軍艦數艘を組て一隊と成したるものあり各一隊毎に惣將官一員其附屬の船將士官數員あり當今現在の軍隊は先自國の軍隊一　惣將マツキリユネイ

蒸氣　コレカツトローノツク船號　大銃四十門

帆前軍艦　セーハンナ　大銃廿二門
同所　シントロウイス　同廿門
同　シヤーメストウ　同廿二門
同　セラトカ　同廿門
蒸氣船　ブルーケレイン　同十八門
護送船　ラレーフ等なり
大平海警衛の軍隊　惣將ロング
蒸氣　フレカットメルレマツキ　同四十門
同　サラ子キ　同九門
帆前船　シントメーリー　同廿門
同　ヘンデリヤ　同廿門
同　デセラコル　大銃あし
同　セーナ　同廿門等あり

地中海警衛の軍隊　惣將レハレツト
蒸氣　フレガットワーベス　同四十門
帆前船　マセドニーン　同廿二門
ブラシリー警衛軍隊　惣將シブリツキ
帆前　フレガットサバーン　同五十門
同　同　シントラウレニン　同五十門
同　ヘルモウツ　同廿門
同　ブレーベル　同十六門
蒸氣船　メーベス　同二門
同　アタラント　同同
同　カルドナー　同同
ブリキ船　ドルヒーン　同四門
同　ソーテルスステル　同二門

蒸氣船　ウエテルホルト　同同
同　ホルトン　同五門
ブリキ船　ベインブリゼ　同六門
蒸氣船　ウオーテルウイフ　同一門
ブリツキ　ペーリー　同六門
護送船　レラース　同一門
蒸氣船　チユーベン　同同
同　メテコメト　同同
同　ハーリートラーン　同七門
亞弗利加洲警衛軍隊　惣將コノーブル
帆前船　シムヘルランド　同廿四門
同　ヘンシネーフ　同廿門
同　デール　同十六門
同　マレヲン　同十六門
東印度海警衛軍隊　惣將タテナル（こゝにボーハタン船將よりも我邦ニ來りし者）
蒸氣　フレガツトミシツピー　同十一門
同　同　メニソーダ　同四十門
同　同　ボーハタン　同九門
帆前船　ゼルメントウーン　同廿二門等あり

これ其平常警備の軍隊にして非常の際或は其地方の大亂戰鬪に當れは猶軍隊を增多もと云今此說によつておもふに我邦に到る諸軍艦大低東印度軍隊中の內を出てす以て證と成すへし往昔ペルリーの我國に到りし時其率ゆる處の軍艦大低東印度の軍隊并自國警備の軍隊共に二隊成りしと知るへし又此說に附き其船號を以て考ふるに此中二三艘を除きたるもの歟或は支那地方に止め不時の遭變若しくは糧送に備へし歟知るへからも

○又聞く今時合衆國海軍官員の惣數士官以上の者大低惣督（所謂コモトー

ル成る者)百一員甲比丹百三十三員士官三百七十四員醫官六十九員此他大銃手機械掛之士官同見習等數十員ありと云

○合衆國海軍士官の名簿あり今其簿中に載せる諸官員俸錢記を爰に譯し以て考證に充り

官職		當職無き者	海軍局當職	航海當職	大軍隊當職
甲比丹	老職	三千五百ドル	四千五百ドル	同上	
	軍隊所謂エスカトロン隊の甲必丹		三千五百〃	同〃	
	全給料	二千五百〃	四千〃		
	補缺ゝ充る者	千八百〃	二千八百〃	同〃	
指揮官	全給料	千八百〃	二千百〃	二千五百〃	
	補缺ゝ充る者	千二百〃	千九百〃	同〃	
士官	指揮官			千八百〃	
	全給料	千二百〃	千五百〃	同上	
	補缺ゝ當る者	七百五十〃	千〇五十〃	同〃	
醫官	第一仕官後五ヶ年中	千〃	千二百五十〃	千三百三十三、三〃	千五百〃
	第二次同斷	千二百〃	千五百〃	千六百〃	千八百〃
	第三次同斷	千四百〃	千七百五十〃	千八百六十六、六〃	二千百〃
	第四次同斷	千六百〃	二千〃	二千百三十三、三〃	二千四百〃
	在職廿年ノ者	千八百〃	二千二百五十〃	二千四百〃	二千七百〃
出納官兼醫官見習		八百五十〃	千百五十〃	千二百〃	
醫官見習		六百五十〃	九百五十〃	同上	
出納官	リニー船乘組ノ者		三千五百〃	三千〃	
	フレガット船同斷			二千〃	
	スループ或ハ第一號蒸氣船同				
	プリツキー及蒸氣船同				
	スクーネル				
	ボストンユウヨルク				
	ノルホルグワシントン				
	ノルホルグ及ひペンセコール				
	海軍局ゝ在る者		二千五百〃		千五百〃
	ホストン子ウヨルク				
	ノルホルグ等ニある監船乘組		二千五百〃		
	ホルツモーツ及ひヒラテルヒヤ海軍局ニ				
			二千〃		

在る者					
合衆國中或ハ他洲ヨ在る海軍從事の者	千	〃	千五百	〃	
第一仕官後五ヶ年中	千二百	〃	千五百	〃	同上
第二次同斷	千四百	〃	千五百	〃	同上
第三次同斷	千六百	〃			
第四次同斷	千八百	〃			
在職二十年ノ者	千	〃			
カプレインス	八百	〃	千五百	〃	同上
數學教授方			千百	〃	
按針役（リーニー船乘組）	七百五十	〃	千	〃	同上
同全給料					
ハッセルトミットシップマン	六百	〃	七百五十	〃	同上
ミッシップマン	三百	〃	三百五十	〃	四百
按針役	三百	〃	四百五十	〃	同上
水夫小頭					
大銃手	六百	〃	七百	〃	九百

大工					
帆縫					
機關師（仕官後五ヶ年中）	千二百	〃	千五百	〃	同上
同二次同斷	千四百	〃	二千	〃	同上
第一等機關師見習	八百五十	〃	千	〃	同上
第二等同斷	六百	〃	八百	〃	同上
第三等同斷	四百	〃	六百	〃	同上

按ヨ海軍諸官員の順序格式等各國少異ありといへ共大體同一なり其給もする處の員數も各國貧富幷に銀貨の高下等によつて未ゑ少異なきこと不能往年唱蘭の船將カッテンヂイキ成る者筆記して送くれる書中事海軍に及ひしものあり左に抄譯して參考とも

○水師の軍務はこれを陸軍に比もれは太た困難あり其理如何となれは水軍歩卒の職務は陸軍よりも大ニ危險にして其陣亡目前ニ瀕し且職務

の大に危險なるに依て其職に給仕もる兵等一二歳にして職を辭し去るの恐ありこれ時に臨て溫言好くこれを慰揚もるは妨けなし不羈の良民を以て危險に却掠もるは人の好て欲せさる所なり

○佛郎斯國の制は軍陣土人名簿と一樣に水軍姓名簿を具す

此法普く沿海に達して殘も所なしこれ漁人中には極めて善良の水夫を出も故ゑ

○水軍姓名簿に載もる所の沿海の衆庶は職務に免れ且一二の他の利益あり卽ち譬は掌職の時間他より短なく給料他より貴き等の如し

但佛郎斯國には唯戰爭の時而已此姓名簿を用ひ而してこれを定限として懇望自投（フレイウィルヘル）の職務名目を擧けて水夫の職に充てす

○戰爭に臨て諸人皆武器を携帶もるを要ともる時は此規則を守つて又亂さす而して漁夫は軍陣に給仕をもして猶能く船上に職を掌とる

此に依て此規則の功又甚ゑ善し而して佛郎斯國自賞して云く此國實に居常水夫四萬人を具ふゑしと

○英吉利國の制はこれに反して軍陣にも又軍艦にも土人姓名簿を具へも其職務を掌とる者は總ゑ懇望自投の兵を擧てこれに充つるを要せもこれに依て魯西亞國との戰爭の時其諸害を見ハせり此時に方つて東海の軍艦種々の土人を聚合して兵卒と爲し其部署甚ゑ粗惡かるを以て艦將ナピール氏其粗兵を以て海に赴かん事を懼るゝ甚しふして其嫌忌を掩蔭もること能ハさりしに英軍貴價を擲て兵を募るといへとも曾て其員數に滿てること能ハさりしなり

○凡歐羅巴中大ニ水夫に缺乏せるは必らも其土人衆庶の間商賈の事恐敬もへき擴大繁昌成るに歸も

○和蘭國の制水軍職務には又總て懇望自投の兵を採用も

此規則は能く水軍農兵に建つるといへ共上章擧くる所の利害に依て曾て此法を以て陸軍に及さも

凡我カ軍艦は投役不羈の兵を乘り組せ而して其職務を奬勵もる爲めに本授小軍隊の小長官と水夫を設け置き其俸錢を貴くも其推算記は下條ニ擧く

本授小軍隊を制する定則は和蘭國水軍號令のレセヲイル中に見ゆ而して下條記もる所の法に就てこれを建つゑし

第一ニ本授小軍隊を制するに小長官及ひ水夫の員數は定限あることなし

本授小軍隊の利益は第一俸錢他とりも貴く又補備の長官にして俸錢減少せる者及ひ褒賞金に於るも遲滯もることなし

本授小軍隊の長官に陞らんことを欲せもまた水軍職務に定まれる時限を奉仕せんことを欲せさる者は又三或は五年にして職を辭し去るを許す

水軍歩卒或は水軍はこれを以て千五百人の小軍隊を制し本授小軍隊の小長官及ひ水夫に給せる諸利益を給も

本授小軍隊の水軍及ひ水夫は宛然として軍艦の警備屯軍のごとし

速やゐに軍艦に兵を備へ及ひ行裝を具ふるには本授小軍隊の水夫及ひ歩卒を要し而して其水夫を擧くるには居恒掌職時間を定め三四或は五年の間給仕せしむるを期限とすること顯然ゐり

夫を其掌職時限を定めさる時は其利害如何なる乎○これ出帆せんと欲もる時機に臨て其水夫船を捨てゝ逃遁もへきなり

これ其機會を失もること大ゐらすや

此に反して其本授小軍隊中ニ小長官及ひ水夫の德義練磨の功ありて衆に卓出せる者を撰拔して設くる時は則ち常に水軍の核實を爲し止を得もして不適當の兵卒を擧け用ゆる時は此核實を增すへし

此法に從て和蘭國の水軍を編制し又演習に依て斯の如く水軍速やゐに必要の適宜を得へし

歐羅巴は商賈盛にして殆と其各國水軍を備ふ若軍を起もへき時は殊に本授小軍隊成位を要む

此に於て衆庶自ゐら軍備を設けんことを欲し水夫務めて其軍艦の爲に用ひられんことを欲も

但しこれよりして自然速やかに良水夫の缺乏を釀し出も此時に當りては良水夫ゐりとも尙いまた軍艦水夫の要領を得さること屢々ゐりといへとも驚歎もへき貴價を以て眼前ニ擲ち出せしむるに至る

而るに良善ゐる小長官及ひ水夫の本授小軍隊を具へ此諸官を敎師として船中に分賦もる時は則ち俸錢を增加せもして水軍を制もへし

予水軍長官敎導の法を說かさりしゐりこれ此法は年齡十六歲以下の少年を將て敎場或は大艦上ゑ聚合して長く水軍長官に至るまての法を敎導もるより他の法ゐき故ニ

以上撮要

唱蘭國水師本授小軍隊小長官及ひ水夫の俸錢表

官職	增加せる月俸錢	提要
シキッペルの長	六十ギュルデン	第一等のリーニー船及ひフレガット
同	〃 五十六	船これより小成る船及哨船
シキッペル	〃 四十六	
水夫小頭	〃 三十七	
シキーマン	〃 三十五	
第一等桶匠	〃 二十五	
ボッテリール（船中食物預マ役人）	〃 二十三	定姓名簿の人員百人と百九十九人乘マの船
	〃 二十五	同二百人と三百五十人乘りの船
	〃 二十七	同五百人以上の船
同助	〃 二十	乘組姓名簿の順次ゑ從てボテリールの下等ゑある時
同	〃 二十二	同長たる時

教授師	二十五ギュルデン	若ホツテリール缺けたる時同助を以て長と爲し船中に居る時其乘組姓名簿下等に在る時は其定俸二十ギュルデンの上に其定俸と故のポツテール定俸の半差を增す
船中罪人預役	三十〃	
同	二十五〃	
看病人の長	二十五〃	
看病人	二十〃	
甲比丹房の厨人	二十六〃	
同船將の厨人	二十六〃	リーニーフレガット及哨船
一船の厨人	二十六〃	小成る船
同助	二十〃	

水師本授小軍隊の小長官及ひ兵士の月俸錢表

官職		提要
アシウタン下等士官	五十ギュルデン	
セルヂアントマヨール	四十〃	
第一水夫小頭助	二十六〃	
第一等シキーマン助	二十五〃	
第二等水夫小頭助	二十三〃	
同シキーマン助	二十二〃	
第三等水夫小頭助	二十一〃	
同シキーマン助	二十〃	本授小軍隊に定り入る時は月俸錢を增加もること二百ギュルデン
甲必丹のスルーフ船を司とるクアルチールメーステル	二十五〃	
バルカス舟を司とる同	二十三〃	
クアルチールメーステル	二十〃	
第一等の水夫	十八〃	

第二等の水夫	十五	〃
按針役の長	四十八	〃リーニー船フレガット及ひ哨船
同	四十五	〃これより小なる船
大銃手小頭	五十	〃リーニー及ひフレカット船
大銃手の長	四十六	〃小なる船及ひ哨船
大工の長	四十八	〃リーニー及ひフレガット船
同	四十五	〃小なる船及ひ哨船
帆縫の長	四十	〃
第一等の鍛冶	四十	〃
第二等の按針役	三十五	〃
大銃手	三十三	〃
同　助	二十二	〃
第二等の大工	三十五	〃

第二等の帆縫	三十	〃
第二等鍛冶銃工	三十	〃
セルヂアント（別隊の司令官）	三十五	〃
同下等	三十三	〃
ユルポラール（別隊の司令官）	二十四	〃
ユルポラール		〃
同鼓手		〃
同下等	二十二	〃
同笛手		〃

兼てアムステルダム」レイツウユルフ
街銃工師の證書を受け銃工の職を了
解する者之然らされは月俸錢二十ギ
ユルランあり

銃手の職を掌る時は四ギユルを增す

同斷三ギユルを增す

第一等の水兵	十七〆
第二等の水兵	十四〆
第一等の皷手	十四〆
第一等の笛手	十四〆
第三等の水兵	十一〆
第二等の皷手	十一〆
第二等の笛手	十一〆

又按もるに萬邦共に海軍水卒の得難きこと此諸說を以て知るへし書中懇望自投の兵といふ者は自ゐら好て此兵卒水夫と成る者にてゑゝに農兵役夫の屬にあらす西洋諸國此徒多きゐ故にこれを編成し其中人物を撰拔して小長官幷に其他を定め餘を役せしむ然とも其俸錢多ゐらされは自投の卒もまた少ゐし故に爰に擧くる俸錢表の如きも永世不變の定給にあらも戰爭或は不測の變にて水卒數千を募るときは又其俸錢增加

せさること不能

○本授小軍隊は自投の兵卒を編制せし海軍隊の名にて唱蘭にこれを「ハステコルブス」ト云平常其官職格式定給を以て諸軍艦に役するもの也此法西洋諸國の法を折衷し考定せし故尤良ゐるへし○此諸說給料表の如きは無用の贅言に似たりといへとも海國必知のことたるを以て幷錄し以て後考に附も

○コストシルヘイは海岸測量の義これは自國他邦を云ハも年々船數艘を出たし其海岸の形狀暗礁島嶼及ひ港內の深淺等を實測せし免海圖を制も る當時此役に出たる船蒸氣船五艘スクーチル船二艘なりといふ去歲我國神奈川にて難破せし船もまた此中なり此船は北大洋よりして支那朝鮮我邦の海濱測量の爲に出たせしものゐり聞く此測量中の入費はゑゝに自國の費用のミにあらも英國もまた預ゐれりとこれ海圖明らかならされは航海の船舶不測の災害に係ゐるを以て其利害萬邦に及ふゐ故に政府これを

評決し其器に堪ゆる者を選拔し此役に赴おしむと云

○米人微賤の者等醉狂し或は他事にて爭鬪もる必らす拳を以て打合或は履にて蹴る而已おつて刀槍小刀をも用ひもこれ國法嚴成るか故に若一人にても私鬪に當て刀を用ゆる者あれは傍人等理不理を論せも刀を執りし者を立ところニ拉殺もなり若傍人ゐらすして勝利を得るも官これを赦さすおならす死に到らしむ水夫の如きは平常帶に小刀を持つ若誤つて私の鬪爭に及ふ時はおならも此小刀を捨て敵と力鬪も微賤頑民を御もるにまた一良法成るゑし

○此地に一種の小鳥あり米人呼てハメンボウト云ふ其形僅に一寸八分はかり嘴五六分にして小針の如く毛色鮮美なり仲春初旬より群芳馥郁たる園中に群飛し其花露を吸ふ其群飛速やかにしてみとむへからも唯羽音を聞くのミ初め此地に到りし時山蜂の花露を吸ふものとおもひたりしか後稍く其鳥成ることを知れり

○又一種の毒蛇ありヲレゴンレートルスヲイキといふ尤おそるへく憎むへきものなり其形尋常の蛇の如くにして太く唯その尾異樣にして小車形あり人を見るときは其尾をならし忽ち喰む若誤つて此齒に觸るゝ時は毒全身に及ひ忽として死す百藥敢て功なしといふ此蛇三四年毎に此島中の原野に生す米人等尤恐る

○同月十三日我使節幷加比丹ブロックヱ華聖頓に行くを送くる

○同十五日ブロック乘船送別も

○同十七日我おの使節の乘たるボーハタン船に到り送別も

○壬三月十一日我おの咸臨船修覆成る

○同十二日船フランシスコに廻も加比丹マッキツーガル同行

我おの水夫の大病なる者八名同看者二名を病院に入る

○こゝ迄十九日迄滯船

○同十八日此夜ブレシテントの官舍ま行き會議諸事を決もるを見る其式

惣統領ゝ舍内の中央上段ゝ机を設く前の下段ゝ筆者二員使奴一員ありまゝ周環十二員の官人あゝ此机後柵あゝ柵外活板工其他の者等來ゝつて其議を聞く始め筆者十二の官員揃ひしや否を問ひ一々其姓名を呼ふ官員之ゝ答ふ而して後其出訴の順次を逐ひ其狀を取てこゝを讀ミ其議を諸官ゝ問ふ各官其思慮もる所の議をいふ必らも其同議多き者を以てこゝを決も又其缺官ゝ人を選擧もる如きゝ十二の官員各其擧けんと欲もる者の姓名を以て紙片ゝ書し入札しこゝを開らくゝ其數七人同議ゝ當ゝりし者を以てこゝを定む大抵夜彼ゝ八時ゝゝして十時ゝ到りて終ふ

官舍の戸前兵卒一員其出入を監守も大統領平常ゝ街中を獨歩し其威權おき者ゝ似ゝり今爰ゝ到つて見るゝ威儀平常ゝ似も其周旋嚴然諸官員等こゝと說話もるに皆愼て其命を奉も

○同月十九日フランシスコ出帆針をサントウイス島にとる

○四月四日サントウイス島の内ワホー島のホノルゝ港に到る同日官員の舍を訪ふ

○サントウイス島ゝ北太平海中に散在もる島にて北緯十八度五十五分に起ゝ廿二度二十分に到り其西經百十五度五十分ゝゝ百六十度四十分中にあり全島を總計もゝゝゝ共に十三個此内無人無毛の岩礁あり其最大成るものをハワイ或ゝヲウエヒーと云こゝに次く島をヲハヲ或ゝワホーと云此島とハワイの中間にあるをマヲイ或ゝモーウエー及ひモロカイと云其極西にある大島をタウエイ或ゝアトーイと云此諸島皆最大成るものにて樹木其他所產の物品を出ゝし土人或ゝ他邦の人民居住もるもの甚多しと云就中ワホー島と稱もるもの其海濱の街市をホノルゝと云ひ廣徑五六丁長十町に過きも中央ゝゝ少しく山脚に沿ひて國王の居館あゝ而して其海濱ゝ小灣を成し船舶を繫くに佳あり加之街市櫛比し他邦の諸貨物夥多あるを以て航海の諸客皆爰に碇泊し清泉食料を求む今此島を見るに内地多くゝ連山高く聳へ唯其海岸平坦あるのミ其内地に

居住せる人民も山脚の稍平夷なる處によりて家室を造くりまた耕耘せ土地火山の噴泥とり成るを以て頗る膏腴なりと云然而已からず季候良和にして常に山上とゞまる清泉流出せ樹木諸艸の類四時青綠にして不絕花あり土人氷雪嚴寒の苦を知らず終歲單衣を穿ち毛衣重襲を用ひず今此街市の暖を問ふに數年試驗せしもの如左なりと云

正月七十五度　二月七十五度三分
三月七十五度一分　四月七十六度七分
五月八十度六分　六月八十一度七分
七月八十二度五分　八月八十三度二分
九月八十二度三分　十月八十度一分
十一月七十二度六分　十二月七十六度三分

此地回歸線環内ニ入るといへども其島の位置適宜他の大地の近傍に覆ふものなく海上の定風終歲不變にして凉風通暢せるゐ故に如此歟また加之毎日夕陽に到るも山上雲霧を起し微雨唯其山上に降たり敢て海岸市中に降らす終歲中市中に降ること唯四五十日ありと云然るとも山上常に雨水潤澤なるを以て清泉街市を流注して海に入る各人隨意にこゝを汲て飲料に供す

○菓物畑作のもの尤佳あり就中琉球芋西瓜の類殊に勝るたり樹木繁茂するとも大材に乏敷歟海岸に繁茂する樹林多くは椰子あり其長大成るも四五間に到るあり樹形櫻欄に類して甚た雅致あり

○國王の居館も其周圍石を疊みて墻壁とし方一町に過きす最小の門あり こゝいまゝ全備せさるものに似たりこゝを入るは左右樹木を植ゆ中央一條の道路を設く大凡五十間餘り此後西に國王の居館あり客館の前庭迦嚕車六七挺を備ふまた門内に兵卒六十員斗り二行に列して銃禮す常も五六員の兵卒門側の小屋に監守す

○港内海岸を去ること一町斗りにして一の議政館あり其右廿間方もあり

造築磚製の二層樓なり爰に外國事務官の役所あり國王其命令を島内に傳ふる時ゝ爰に出て以て自から告示す

國王の此館に來たる從前銃卒二隊(四伯魯頓)指揮官二員こゝを令して館前に二列せしむ其後少間にして王自らの乘車に駕し來る御者從者なく獨歩なり王車をりくたゝゝ銃卒悉く捧銃しこゝを恭敬す

館内中央に王の高机あり其左右は高官員の机を設く前面は國民群集す○王出て此机に倚れゝ一の官人王に對しまた諸人に向ひて演說すること少間皆此國語にて一も解すへからすおもふに王德を讃美するものに似たり其後王一紙を出して諸法則を告示す初めゝ國語を用ひ次ゝ米利堅語を用ゆ各人愼て其命を聞く終れゝ机を離れて別室に入る

又此館より半町を隔て一舍ありこれ又官舍あり數員の官人常に爰にあり て出入の船舶貿易の事を司とる

○此島外國の事務を司とる官長ゝ多く外邦人を使用す就中米利堅人多くこれ其國民廣く外蕃に通せさるを以て其機務宜を失し又土人多くゝ其性情澹泊魯鈍成るゝ故に其使用に當任する者少なきにをり又島民少おく武威振ハさるを以て英國或は米利堅國の格外保護に倚らされゝ外夷の恐れなきこと能ハさるゝ故歟

○島内通用の貨幣ゝ皆諸國の金貨なり問之に島中金銀銅錫の鑛山なしと云

○街市内諸邦の人民永住を成し諸店を開らき或ゝ諸器械を造くる者等甚多し就中米利堅國人尤夥多なりこれを總括するに四千員にくたらすと云また纔に市中を去て美なる園を設け大屋を作くり居住する者あり是等ゝ此地の季候良和なると生活の安寧成るを愛し靜に薄利を收むる者なり故に其土人長官の他ゝ家屋の美麗壯大なるもの悉く外邦人なり支那人また多く來り住す

○此地農民のことき之殊に汚穢の小屋に居住す賤民常に素足にして履を用ひす其常食芋を磨碎し水ニ泥して糊狀と成し其半を敗腐に傾き濃き葛湯の如くなりしを寛ひ脂して食之汚穢甚たし○海濱の漁者を終歲裸体犢尾褌ある而已

漁者の用ゆる小船を大木を穿窟し以て猪牙の形と成し短小なる楫を以てこれをやる其走進甚た迅速なり此舟の幅徑大成るも一尺五六寸に過きす故に反覆の恐れあるを以て其舟の片面前後より一の適宜なる圓材五六尺斗りのものを附著し此二材の頭に舟と平行してまた一材を附け置く此前後に附けし二材を少しく曲り殆と水面と平行す今若其舟一面に傾き覆らんとすれは此材重點となりて敢て之れを防せくまた材ある方に傾く時を此材先水上に浮て覆沒せす頗る便を得たり

○ホノルヽの港内灣を成す處甚た廣あらす然れとも海水深き故時として

を數十艘の大船を繫くと云今其海岸淺き處の暗礁を碎き破ふりて船舶所を造くる

暗礁を穿ち碎くの機械を長大の鍬にして其柄を大材を以て造れりこれを建つる別に齒渠ある楷子樣の二材を接せしむ此鍬を上昇するに齒ある鐵車を用ゆ殆とドンメカラクトに類す其鍬高く楷子上に昇れを機を轉して一頓に下降せしめ其重大の力勢にて暗礁を突碎せしむ」又別に其碎きたる處の礁沙を揚くる鐵鋤連ありこれを平濶なる船に裝置す其大略を云に先船首とり大材二箇を斜に突出せしめ其材頭に鋏車を附しこれよりまた大材を以て柄と成せし箱狀の鋤連を繫く此器を二の鐵鎖を以て前後左右上下せしむへし○これを使用するを蒸氣を用ひ敢て多く人力を煩ハさす今海底の砂石をすくひ揚けんとする時を先蒸氣機を轉して鐵鎖を引あしめ鋤連高く斜材の半に擧けしむ爰に於て其底部已と開らきて無底の箱狀と成る時鐵鎖を解けをま

た己の重力にて海底に落つ此時また再ひ鐵鎖をひのしむる時ゝ其鋤連船に向あつて引き附られ其内部に砂石を容る容れゝ其底部自から合して砂石を漏らさす益鐵鎖を引けゝまた水上に揚あり幹材の半に到る此時また一鎖を引かし先右方に傾け別船の上に到れる時底鎖を引きて底を開らあし先砂石を落し出して船内に移す

○一官人我輩を誘ふて當地の囚獄を一見せしむ獄ゝ街市を去ること十町計り東北の隅にあり其築造此地に比すれゝ甚大なり外周大凡方百間はあり高き磚墻を以て圍む一面に二重の門を設け常に鎖鑰を下たす監守兵卒あり人到れゝ其姓名を問ひ其來由を糺問すこれを入れは官舍あり上官一員下官役夫兵卒等常に爰に居住す牢ゝ通常の家屋に替ることなし唯囚者一員毎に一室を設く廣袤幅五尺丈ケ一丈斗り一の釣臥床あり室前廊あり爰に明窓を明らく夜ゝ點火燈あり室戸ゝ外ゝり鎖す囚者到れは先其衣を脫せし先別に綿布一色の衣を與ふ罪人晝間ゝ下官これを率ひ出て土工或ゝ其他の作業に責令せしむ使役甚た嚴なり若解惰なる者あれゝ杖を以てこれを罰す○其牢舍の日數ゝ刑の輕重に關係す責令終て放赦の日に當れゝ己の舊衣を與へしめこれを其地に歸せしむ

大罪ある者ゝ屋の下層に囚す此室ゝ殆と窖の如し然れとも大氣通暢を妨けす室内土上に机あり机前三面の壁間に鐵環を附くこれ罪人首杻手杻或ゝ足械の鐵鎖を繫くの用とす此窖室ゝ纔に五あり

女牢ゝ舍の上層にあり此室大低前に同敷唯其廊前一の廣室あり晝ゝ女等こゝに出て縫針の業を成さしむ

牢舍の前面方三十間斗の空濶の地あり病者或ゝ重罪ある者ゝ足械をして爰に散歩せしむ兵卒三四人手銃及ひ劒を採つてこれを監す

此地の左方一屋ありこれ則病院なりまた右方に厨所あり日々の食料を煮燒す

聞く此島絶て强惡重科の罪人なくまた死刑あることなし廿年前支那

人土民の婦妻に强姦せし者あり其發覺して夫の怒らんことを恐れ密にこれを毒害し山中に逃亡す後ち官これを執らへ其事跡訊問の後罪科甚强惡なるを以て終に縱臺に架してこれを絞殺せりと此刑罪の後今に到る迄絶て死刑なし故に其重罪嚴科といふも纔に罰杖に過きすと云

○此牢舍に一の大犬あり能く官員役夫に馴る此犬每夜其藩籬を廻くり監守者の懈悟を助すく若密に逃亡せんとする者あれゝ忽ち吼哮して咬嚙すること甚た猛烈なり故に囚者これを恐れ監者の助け少々ならすと云

○一夜此地學校中にある生徒の試學を見る其式甚た異樣なり市中大學校なきを以て假に寺院を以て其場とすこれを聽く者老若男女貴賤の差別なし既に此夜王妃も又來たりてこれを望めり○正面一高臺あり前ゝ低くして數机を設け聽者の座とすまた此後際一樓あり爰にも聽者數人あり生徒一人正面に出て其學ひし處の學術中兼て科目を定め無本を以てこれを講說す一人終れゝ又一人出て講明すること如前このことく成しつゝ三四人終りし每に幼女五六人或ゝ七八人皆一樣白色の衣服を穿ち續き出てゝ胡琴を彈し或ゝ歌ふ終れゝまた生徒出り如此成す故に聽者倦勞なくしあも自ら種々の道理を會得し又說者も衆多の聽者なるを以て勵みて其所說詳明ならしめんとす之れ兩なるゝ裨益少なるゝらさるかことし

此試學ゝ必らす其日を定ゝ其說く處學術の科目幷に講者の姓名年齡等ゝ一紙に植字しこれを聽者に分ち與たふ大低一夜七八人にて終はる

○我輩此島滯留纔に前後四日に出てさるを以て其風土政敎をして詳察すること能はす故に西洋人此島を記せし書中とり一二を抄譯し以て參考とす

其書に云此島ゝ北緯十八度五十四分とり廿二度廿分東徑二百十七度廿六分とり二百廿二度四十六分の中間にあり廣袤貳百九十里方積の大に

して火山を以て其根基と成せり其著大の地をヲワイと云爰に大成るラア(火山なり噴出せし石樣の土塊塊及ひ多くのラアの噴出せしもの猶一の噴焰する火山を見るこれをキアウレア或をペーレと云而して多くの連山あり此内一二最高なるものあり其山脚甚厚腴の地を成す○最高山をモウナロア及ひモウナレア「カー」と云此二山をヲワイ島中にあり○又夥多の小川あり此内ヲワイ中にあるワイカと云もの適宜の深水にして内地に遠く小舟を通すへし

○季候を適宜之然れとも寒候より暖熱多し其山勢を整美流氣清新なり海濱をこれに反す夏月不同之暖熱ありこれたゝに海陸の定風に因て生する處を成す○大低此島の季候を西印度地方に類すへし○土産を豚犬及歐羅巴米利堅洲の小獸鳩雁水鷄の類コリブリ鸚鵡また美なるスヘクト(鳥の名不詳)の一種あり此羽毛を以て上官頭帽及ひ上衣の飾とすまた魚類貝類多しアルコム及ひタロ根は此島中耕耘の最なるものゝチヲルテル

を竈煮せしもの多く食用とすへし而してまたこれを以て麻醉劑の飲料に用ゆアウチ樹(製紙桑の一種)此樹を多く培植に注意すこれよりして大半衣服を製するの用となすヤームス根鳳梨洋芋甘蔗ブロード菓椰子ピサンクス檀香(これ貿易物産の最なり然れとも此樹林多く失して漸次に寡少に到れり)ラーハ及ひヲリセチレイ石ウエット石ラービスレイヂウス大理石溫泉及ひ塩を海濱の灼熱に生し又ヲワイ島中にを塩泉ありこれを以て土人外邦に送くりまた魯國の功作場に送り米利堅の北岸に運輸す

○今時又葡萄橙支那産佛子柑罌粟芥子稗菜菜根洋芋瓢簞瓜ハーク菓大麥朝鮮人參及ひ其他歐羅巴所産の植物を培植す

○此内の人員コーク氏此島檢出の記載に從かへを四十萬口今時北米利堅國周行人の記に因れを十三萬口なり此内八萬五千口をヲハイ島に係れり其人種をマレイス種に根基しタアテル種より黑色を帶ひ其性情澹

泊なり而して土人布類座席を作るに甚堪能なり此席を撿するに細質緻密他產の物々超過せり而して能く久敷に堪ゆまた普く桑の一種を以て種々の布を造くる然れとも機織せすして編製す或ゟ其布中甚た細密なること美なる紅黃また黑色に染むるものあり又土人眞珠貝或ゟ諸骨又木製の魚釣を作る又歐羅巴式に較らひて船舶を製造す其大小の索は既に海客の運輸せしを見る歐羅巴所產のものより堅强なり

○千八百廿年に死せし國王タメハメは其全島を以て己か有と成し常に米利堅街市の海客また此に來往する者等の好人を以て任用し己か屬下をして漸次に改革敎育せしめたり

○此國王船舶六十艘を保てりこれ悉く我か土人を用ひ其內地人民の爲に製造せしものゝまた一の米利堅製二百トンの船及ひ三桅船美麗なるブリッキ船等あり此船は多くは歐羅巴製の大銃を以て備ふ○諸々の上官及ひ全島の人民等此國王を記念追慕し其死を歎し王名或は其死日を以て各其肘上に墨記しまた其王名を以て神靈榮暉の內に稱揚するに到たる

○此國王の嫡男其統を嗣くこれを「リヲリヲ」ト云則タメハメ第二世なり此王其婦妻ト共ニ英國に航海し到りし時其國內に於て死せり

○これに嗣きて其末弟「カイケヲーリ」則タメハメ第三世王ゟり此王千八百三十四年まて攝生官員中にありて諸事を執行せり而して漸く年長するに及て諸般を解するに隨かひ自分政令を施行す○爰に於て彼れ後來其國法に應用し他邦人等は別ニ其所置成すへきことを明察し兼て其他邦周行人等の繁雜を馳解せしむるに到れり

○國王は攝政官を保持す其居室を歐羅巴の製式に倣らひ建築す構內大銃十五門を備へ又令して兵卒五十員に備鎗の手銃をとらしめ常時の監守とす

○其政令は「ヲンベバルキテ」モナルシー(これ國政王の隨意に出つるを云)

にて「レーンステルセル」の一種を成す其位權はこれを世々にすへし○其上官の階級僧官及執事の如きは嫡男其父に嗣きてこれを執る

○今爰に其國民を見る從來四等あり其第一は國王にして全權を掌握し及ひ其領事の顯著なるものゝ第二は各島の市令官幷諸々の大地主令長其第三は稅地主これ其定規の地稅を入れ其地をして己か屬奴に耕耘せしめ或は其地を小分し以て借地と爲す徒なり第四は工人の種を屬せしむ○通常の土民は地屬として爰に入れす

○國王の威權は唯其所親に於けるのミならす權柄隨意其國民の生活を管轄し而て此權各島の市令官及ひ地主會長の上に擴充せり

○往昔は神佛の如きもの絕て在ることなし今其所々に觀る處の寺院中最大成るはラハを以てこれを築けり其一寺猶能く存する者高徑貳百七十尺徑幅貳百十尺にして頗る美麗の工作を用ひたりこれヲワイ島中のカラウヲカラント云村傍に在るものゝ

○先千八百十九年タメハメ王の時其政敎に關涉爲すへき所の分はこれを容れたりし千八百廿年には北米利堅の周行會士等此島中に移り來り其敎法をして普く弘通せり而てまた文字及植字工を到らしめ是よりして千八百卅二年及ひ卅三年には書籍等を移せり又此二三年前より玆に六箇の周行會舍を設けたり則其內三はヲワイ一はワホー一はマウウイ一はアトワイ等なりまた此各地の令長等各々寺院を建立し令下して日曜日每に禮參成さしむ又周行會舍中に學校を設け此內常に百人以上の兒輩を容れ置きこれを敎育せしむ○從來こゝに其敎育成就の者を以てまた其敎導速成を捗らさんか爲に他の縣地に移轉し日々書記讀書等を以て其國人に傳へしむこゝに於て千八百三十年には既に十島中其國民敎授なす所の學校惣數九百箇に到れり○故に此島中に習學する國民の員數既に一萬五千に下らす今時は必らす五萬人に到れる成るへし

○此島は米利堅國と支那地及ひ東印度の中間海路直線內ニあり而て海

客爰に食料を舶齎す於是て毎歳此地にいたる船舶其數を增多す殊に英國人及ひ北米利堅人等己か要用の物件諸貨を送りまた工作器を以て其土人に賣與す○毎歳爰に北米利堅國の船舶百廿五艘四萬トンの物品を齎し來る其價は七十七萬トルラルに下たらす此船多くは鯨漁船にして此地に來り懇ふものなり○此生活通商は島人の改革に於て大に轉化を爲たりし故に是よりして國民大に發けり然るか故に自から他の南島諸民より速に行儀方正の道に變性せり○島中既に融通する處の金貨大凡二十萬ピアステル○國王及ひ長官等の船十六艘これ半はブリッキ船にして其容積九十トンより千トンに及ふ他多くは小成るスクヲール船○島人自から一船に檀香を借り積ミ其工人を乘り組せ廣東に送くる者ありまたカムシカツト及ひ他の太平海内の島に到り私貿を成す○此島の國旗は英國の旗に八或は九條の赤青白の線を配したるものなり○また島人多米利堅の船に乘り同國の北西岸或は支那地方に航す而して可成る水夫に到れる時は其本國に歸復す○島民多く既に木工桶工鐵工縫工となり自から其職を成す其手巧歐羅巴人のことし○又歐羅巴人及ひ米利堅人をして島中に住居せしむ從來英人の如く各其國の貿易コンシュルを置くに到れり

幕末遣歐使節航海日錄

遣歐使節航海日錄

一文久元年十二月二十二日亥快晴

一今日四時御供揃にて御出立芝田町波戸場より御乘船

一御一統樣同所にて御待合英吉利國より御迎の軍艦ヲーデン船へ御乘込

此度の御使の御方々樣其外附々一統の名前左に

御使　御勘定奉行外國奉行兼　竹内下野守樣

同　神奈川奉行　松平石見守樣

同　御目附　京極能登守樣

外國奉行支配組頭　柴田貞太郎樣

御勘定　日高圭三郎樣

アメリカにも參りし人

御勘定役格御徒目附　福田作太郎樣

外國奉行支配調役並　水品樂太郎殿

岡崎藤左衞門殿

御普請役　益頭駿次郎殿

アメリカにも參りし人

定役元締　上田友助殿

上田より福澤迄十二人二等の部屋へ同居高橋除く

定役　森鉢太郎殿

御小人目附　高松彦三郎殿

山田八郎殿

御醫師寄合　高島祐啓殿

松平肥前守樣內　河崎道眠老

同心　齋藤大之進殿

飜譯方　松木弘安殿

御家來向七人二等之部屋有之候得共夫々用も有之上の御部屋へ相詰居候もあり部屋へ居るもあり

高間應輔　長尾條介

竹內樣御家來

福澤諭吉殿

太田源三郎殿

立廣作殿

福知源一郎殿

定役格通詞

箕作秋坪殿

松平樣御家來

野澤伊久太

市川渡

京極樣御家來

岩崎豐太夫

黑澤新右衞門

柴田樣御家來

長持五郎次

小使賄方兼

小使賄方七人二等の部屋へ同居

實は阿州藩　原一濟

實は肥前藩　岡鹿之助

同　同　石黑貫一

閼子坂上東禪院下駄屋の横に廻る　實は加州藩　佐野鼎

實は松平大隅守內　佐藤恒藏

實は長州藩　杉德助

伊勢屋八兵衞手代　十兵衞

一御迎船英吉利軍艦ヲーデン船中の甲板間取之荒增御部屋々々

船名　ヲーデン

船長さ　百九十フート　此間三十一間五尺

同幅　四十二フート　此間七間餘

噸數　二千噸

上甲板大砲六挺口徑八寸二分　四丁　中甲板同十挺

船將　コモドールヘイ　第一ロイテナントフロックス

ロイテナント　三人　按針役　七人

蒸氣方士官　七人　醫師　二人

外士官　十二人

乘組合計參百十人

一各所よりの距離及ひ一所より他所への船路經過すへき日數

地名				
十二月二十二日發 江戸より	正月六日着 香港へ	千五百〇〇	十三日
支那廣東 正月十二日七時出 香港より	十九日朝六ツ半着 新嘉坡へ	千八百十八	十二日
二十八日八ツ出 新嘉坡より	正月二十九日四ツ時著 ゴール へ	三百八十一	四日
ピナンより	十二日九ツ時著 阿丹へ	千二百十三	八日
錫蘭島柳 二月朔日七ツ時 ゴールより	二月二十日九ツ時著 シエスへ	二千百三十四	十二日
亞刺比亞 十三日八ツ出 阿丹より	歷山亞へ	千三百〇八	六日
エーデン	二十八日四ツ時著 馬兒太へ	二百里	蒸汽車
堵尼素より	義港へ	八百十九	四日
二月二十五日曉六時出帆 歷山亞より	南アマブトンへ	九百八十一	七日
エジプト 馬兒太より	以上記せる里方は英國の定むる所に隨ふ其二里三分ノ二を日本の一里とす	千百五十一	七日
イタリヤ 義港より			

計壹萬千五百〇五里　七十三日

○同二十三日　子天氣

一今曉七ッ時品川沖出帆五ッ頃横濱へ着少し積物等致直に四ッ過より出帆

○同二十四日　丑雨氣

一今日遠州沖にも可相成由

○同二十五日　寅天氣

一今日晝後より天候風強く船動搖

○同二十六日　卯雨氣

一今日風強く動搖致候

○同二十七日　辰天氣

一今日は少し穩なり

○同二十八日　巳天氣

一同斷

○同二十九日　午天氣

一長崎へ今朝五時頃著尤此度同所へは寄不申趣の所石炭惡敷能品積度依て俄に立寄候由直に御上陸伊素佐製鐵所御一見夫より同所浦上村淵庄屋志賀九良助と申す内へ御滯留家作宜敷入江を越し向に長崎町家山々を見はらし眺望至てよし御料理等も御差圖等有之大に思召に叶御歡御入湯も有之候亭主九良助總領志賀浦太郎と申者魯西亞通詞にて先達て箱館へ罷越其後江戸へ相廻りて船に乘込出府致候趣に申候處則右浦太郎には右船にて横濱に於て御逢も有之事にて其御噺も有之亭主大に歡候事尤先刻御上陸かけ長崎運上所へ一寸御立寄り同所より御案内等罷出候御止宿の義當所御役向より先程沙汰有之候事

製鐵所と申は蒸氣仕掛にて夫々細工出來の樣に殊の外大造成仕掛けに有之候人手不勞少人數にて製鐵出來と被存候

○同大晦日　未天氣

一今日長崎奉行所へ爲御面會に御出竹內樣には今日御上陸直に御奉行所に御出に相成此節御奉行は高橋美作守樣御目附は有馬帶刀樣なり

一結城玄東寄宿小笠原屋敷前新町藤田圭甫と申方に罷在候波戸場近く也

一長崎町繁榮に相見へ候町方不平の地也中々乘切り極六ヶ敷地面也

一奉行所より尙又九良助方へ御引取今夕も御止宿の思召の所明日は未明に出帆致候間四時迄に乘船の樣船將申出候に付俄に船へ御戻りに相成候

○文久二戌正月元旦　雨氣中寒暖計五十七度

一今朝六ッ半頃長崎港出帆暫時に地方不見九ッ迄に三十六里程參り候由

○同二日　酉天氣　五十九度

一昨日午時より今日午時迄百八十八里參り候由

○同三日　戌雨氣　五十九度

一風少々荒く動搖致候今日も百九十五里樣同位

○同四日　亥雨降　五十三度

一風烈敷殊の外動搖甲板へ波打上る事數度也舟三十度餘の動き餘程强動搖なり今夕臺灣を越し候由百八十七里

○同五日　子天氣　五十四度

一今日は風もなく穩なり二百三十里位も參る

○同六日　丑天氣　六十度

一今日四ッ過る頃支那廣東香港へ著夫より當地は近來英領故トナルトよりホンコンの奉行へ及掛合旅宿等の手當致七ッ頃御上陸今夕旅宿名前ホンメルセイルと申英人の內に御滯留一間に一間四方位なる四本柱に床有之四方に白の麻樣の絹織のもの又カネキンモメン樣のものさげ夜具敷ものは矢張モン織カネキン且半毫織のフランケットなと晝夜置付に有之夫々手洗遣ひ候には陶器の鉢臺付にて置付食事は又別間にて夫々一組ッヽ對食也

料理は西洋料理支那料理替り〳〵差出候西洋はパンにカシフイ牛肉ブタ玉子色々小刀さし熊手樣のもの付て差出候

支那風は蓋物に飯を入繪皿樣のものに烏肉野菜或は干蛸キンコカブラ骨樣のもの多分ケンチン樣の仕立方多し茶ワン箸差出候

一湯殿も三ヶ所も有之大なる瀨戸もの水湯也

○同七日　寅天氣　六カ九十五度

一奉行へ爲御面會御出輿の樣なり四人持の乘物に召しトナルトも同樣是は二人持也

右乘物は町方に多分有之少々上品下品有之暫時にて御歸り

一奉行宅へ竹有之四五尺延候竹の子有之末は竹の子本は竹になり居候盛の菊の花もありバラ草花極多分有之候

馬車にて近邊御遊歩是は馬二疋壹車に三人乘り馬を遣候人も乘り都合四人相向て乘候早き事乘馬の乘り位也今日も八ッ頃より七ッ過迄に六里も御廻の由町方にも所々に右馬車有之多分二人乘又壹人也男女乘多分有之

一今夕六ッ時頃より奉行宅へ招にて御出奉行の妻其外役々の妻參り五六人對食被遊候都て女か先に立女の差圖のよし四ッ過御歸り

一旅宿の事英語ホテルにて木瓜サヽゲエンドウ大豆なと出し候

椰四尺曲り位の木有之葉蘇鐵の葉の大なるもの也

○同八日　卯天氣　六十度

一今朝大砲調練所よりケヘル劒鎗製造所御見物ケヘルなと殊の外多分出來有之凡五百挺も可有之共相見候ケヘル建五臺も不殘揃有之其外出來の筒小道具等多分鎗劒も同樣又大砲製作は別段十二カノンとも存候筒十二挺モルチイル口徑九寸二分筒五七挺も有之其外色々の筒多分玉なと我國の川除の如く積立有之都て珍敷事也夫より臺場御一見切石にて厚さ七尺位積立大砲九挺三十二ポンドカノン也其外病院夫々行屆申候

事筆紙に難盡

○同九日　辰天氣　六十二度

一香港の地は作物等出來の地なし米なとは外より相廻る由何れかと承り候へ共不相分貢もの出來候事

一奉行宅にて今夜踊りを御覽候由にて夜五ッ半頃より御出例の御乘物也提灯なし一向提灯なその事は人足次第と相見へ有無構ひなし踊りは奉行娘ヲッシイル其以下士官の妻男女打寄りて出男女〳〵組踊り候事

ハヤシ方印度人也十二三人位次の別間にてハヤシ方致候女の衣裳見事也上は五百兩位下直にて貳百兩も相掛るかと申候

○同十一日　午天氣　六十三度

一今日出帆可致趣に候得共出帆致不申候

○同十二日　未天氣　六十四度

一今日も出帆致不申候本國より最早便船可有之候間相待居候なと申候由然る處晝後出帆可致趣にて今日夕七ッ時頃香港出帆致候

一船將より差出候規則書左に

十二月二十六日コモドールよりトナルトへ差越同君より使節へ差越英吉利軍艦中に於て堅く守るへき法則を日本使節同勢に知らする掟書及ひ諸件に付同勢の心得になるへき規則

第一

海上に於て「クワタデッキ」の風上となる方は「コモドール」當番士官及ひ常務ある第一士官と「マースタル」とのみ徘徊すへし

第二

碇泊中は船の港に向たる方を風上同樣と心得へし

第三

日本使節同勢の中第一等使節第二等使節第三等使節及ひ余と同食する「マキトナルト」君は「クワタデッキ」風上の方を徘徊すへし并第一等士官と

同食する組頭は風上の方を徘徊すへし

第四

右組頭を除く外第一等士官は「クワタデッキ」風下の方を徘徊すへし

第五

第二等の士官は「クワタデッキ」風下の方を徘徊すへし

第六

使節召使第一等の者は上甲板蒸氣機關煙出より舳の方を徘徊すへし

第七

第二等召使の者は上甲板火輪覆より前の方を徘徊すへし

第八

上記載せる規則は使節幷其下附の者を左右に來らしめんと欲する時之を呼寄する事を妨くるにあらす又士官と其召使の者との間の通報を絶つの爲にもあらす右の規則は唯使節幷士官の地位を定め階級を立てゝ

之に由て其行かんと欲する所より案内なく行かしめんとするか爲なゝ

第九

何れの方風上なるやの事は日本文字と英吉利文字にて張出し置くへし

第十

召使の者は下甲板を徘徊すへからす又當用にあらされは中甲板の部屋々々へ近寄るへからす

日本使節同勢の煙火寢所會食所に附たる規則

第一

寢所及ひ會食所へは一切火を置くへからす

第二

燈火は暫時も硝子燈籠の外に出すへからす

第三

都て兩甲板の間にては別段の免許あるにあらされは煙を吹くへからす

兩甲板の間にて煙を吹くは晝間にあらされは決して許さす煙を吹くは晝間より夜七ッ時迄甲板にて之を許すなり

第四

都て燈火は夜九時に消し其後は當番士官より別段の免しなけれは燈し置くへからす

第五

第一等士官船中乘組の各其所に歸り且燈火も消へたるや否を改る爲め甲板を見て廻る時は日本士官速に之を見て廻るへし

此日本士官にて其事を前方にて上等士官へ告け知らすへし

食料の出し方

日々費す處の數を記し一通り毎に總高合算し手當したる品物の日限たけに持續すへきや否を見るへし

余か書する免許狀なくして船中に決して飲酒を持來るへからす

これ船中の諸人の生命壯健は此禁を嚴敷するにあり

會食する客の內壹人は諸人に示すへき法を心得て諸人に戒愼を加ふへし我方にて是を飲食心得の人と名つけて總て食事の時の備方等得意する也食すへき物或は飲すへきものに拘はらす總ての食品を決して船中の人に與ふへからす又日本人是を船中の人より得へからす但し船中の士官と日本第一等第二等の士官と禮讓を以て相贈答するは妨なかるへし

コモドールヘー

千八百六十二年第一月二十一日於オーデン船

一香港はよき港にて異國國々の船數十艘滯泊同所備の浮臺場の由五階造り位の家根付の大船五艘港內へ五ヶ所に備へ英國定備の旗印差上居候

此港離島にて通ぬけ出來す東南より入西北に出る

一同所町內至て不平坂多し家作は支那人英人と相見へ候へとも諸國の人

罷在樣子に相見へ候

○同十三日　申天氣　六十八度

一今日風宜敷昨日七ツ時出帆より今日午時迄百四十五里奔り候

○同十四日　酉天氣　七十五度

一今日午時迄二百十四里奔

○同十五日　戌雨氣　七十五度

一今日午時迄貳百二十七里奔

○同十六日　亥雨氣　七十五度

一今日午時迄貳百四十三里奔

一袷取出し今日着用昨十五里也

○同十七日　子天氣　七十五度

一今日午時迄貳百二十七里奔

○同十八日　丑雨氣　七十九度

一今日午時迄貳百二十五里奔

一今日七ツ時頃雷雨氣にて少風あり

一新嘉坡近くに相成り小島なと見へ候

一メリケント此節戰爭にも相成居不申哉先日より英國便り承り度樣子の處日本滯泊且出帆後も一向便船なく船將甚た心元なく存し今日新嘉坡近くに付萬一アメリカ船參り居り如何樣の義有之間敷にも可有之とて今日暮合には甲板大砲に彈込を致しソルタートへ夫々火藥を渡し各々ケヘルを持出一間に積置候へ共何事もなく平穩に候乍然奇談なり

○同十九日　寅曇　八十度

一今朝六ツ半頃新嘉坡港に着船致し候へ共石炭積入都合に付少し奥に參ると可申新嘉坡より小々先へ參り碇泊致し九ツ時頃矢張同所石炭積置場へ上陸致し御一統御支配向迄馬車にて新嘉坡旅宿へ着同所にて入湯一飯仕度致し夜に入りオーデン船に戻り候入湯と申ても餘程大なる陶

器の中に水を多分入置湯を少入候事故水同然也此ホテル餘程大きなる家作にて湯殿も八九間も有之料理は西洋風なり上陸場よりホテル迄英法五里と云ふ日本五十町も有か

一ホテル庭に草花木花色々有之名不相分日本に有之品も多分有之五月頃の品多し

一日本尾州蔦郡八斥村の者乙吉と申候由此のホテルに居合御支配向なと色々噺致し候三十年以前に吹流れ兩人存命にて私は支那上海へ居住致し妻も印度人を持ち子供三人有之只今にては歸ると申するも出來不申九ヶ年前アメリカ船にて長崎へ參り候事有之と申候北京戰爭の噺なとも致し候由今壹人は支那フク州に居住致候由當年四十才に相成由

一夜に入り歸り候へは途中螢多分居虫の聲も色々聞へ木瓜さゝけ澤山春夏秋一度の樣に被存候

一椰澤山の地なりシユロの木に似て葉蘇鐵の葉の大きなる樣のもの也此の節實に澤山船へ賣に多分參り候

一野藤澤山の由杖樣のもの多分賣に參る

一馬車は馬二疋も有り壹疋も有之然れとも乘物二ッ位今少幅廣く四人乘にて殊の外早きもの也馬は乘り馳け位に參り候

一椰の實をフラコノットといふ此節多し松の實の樣なものはパイナッポといふ是も多し芭蕉の實ペナットといふ

一此港地平なり土地は小々廣く候へ共ホンコンより淋敷方か支那人の家作英人の家作有り尤大きなる内多し漸く御上にも御一泊のみにて御遊歩もなし外に見聞なし英領也

○同二十日　卯曇　八十二度

一今日八ッ時シンガポヲル出帆至て穩也港内のような場所通り候

單物昨日より着用帷子の人も多し

○同二十一日　辰曇　八十度

一今日も至て靜今朝窓を明け候左にマラッカ見候右にも山々少し見候是はシモタラと申由

一今日午時迄昨日出帆より百七十里走り

一今日より十三四日は至て穩の由船將申候由に相伺候

○同二十二日　巳曇少雨有　八十二度

一今日午時迄二百十五里走り

一帷子今日着用致候

○同二十三日　午時快晴午時過より雷雨の如く一雨有之八十二度

一今日午時迄貳百十五里走り

一今日も至て波靜也左の山々見ゆるシモタラの島なるやと承り候

○同二十四日　未天氣　八十二度

一今日も靜なり

一今日も午時迄二百二十里

○同二十五日　申天氣雲有　八十度

一今日も風は程々有之候へ共浪は至て靜也

一今日午時迄二百二十八里

○同二十六日　酉天氣　八十度

一今日午時迄二百四十五里走り

一今日夕方セイロンの島々少し見ゆる

○同二十七日　戌天氣　八十一度

一今朝早々よりセイロン續きの山々見へ四ッ時頃セイロン島に着今日は上陸不成方可然何れ明日はゴールへ着致候はゝ二日碇泊可致趣となると申上候趣にて上陸なし

一セイロン續き島々山々殊の外樹木繁茂致候餘程土木も可有之相見へ候

一同所台場山の半途に嚴重に相見へ候浮台場も一艘有之候英領也

一此オーデン船は當所の番船にてシエズへ送り屆候事又々此所に歸り未

た二ヶ年も居り候由申候趣

一印度地は人物皆坊主にて如何にも十六ラカンの如く色赤黑く天窓に赤き島や板目の樣なるもの壹丈位共思程卷き付着類も腰より上ははたかもあり何かけさのよふにすじかいに掛けたるもあり色々と卷き付たるよふにて極りもなき形なり

一此地は賣りも不參異國船も外には餘り相見へ不申候然し白瓜持參り候

一今夜四ッ時頃よりセイロン出帆尤同所ゴールへ明後日參り申候由

一セイロン地方竪二百七十里横百里有之由尤英國里法也當港迄百九十六里

○同二十八日　亥天氣　八十二度

一今朝左の方幽に山々見ゆる餘程佳興の山と相見候高山はなし岩山も見候

一昨日出帆より今日午時迄九十八里

○同二十九日　子曇

一今朝四ッ時頃ゴールへ着御上陸此港碇泊の船二十艘計り相見へ山に附たる西方臺場城構へのよふに一ヶ所相見候

一椰澤山にて杉か松か平林のよふに數千本繁茂致居候

一森鉢太郎より披見て致旨順達に付留置

○戊正月二十六日

○下野守　○紫田貞太郎
○石見守　○日高圭三郎
○能登守　○福田作太郎
水品樂太郎
岡崎藤左衞門

旅中幷彼地に於て外國人より銘々差贈る品物は何品に不寄其の都度に奉行衆へ申上御聞屆の上受納可致事

但差贈候品物に寄御入用相成候はゝ其の返謝物相當代料追て御入用に相立候事

高崎祐啓　松木弘安
益頭駿次郎　福澤諭吉。
上田友助。　川崎道眠
森鉢太郎。　高間應輔。
福地源一郎。　長尾伊久太。
濟藤大之進。　市川渡
高口彦三郎。　岩崎豐太郎
山田八郎　黑澤新右衞門。
立廣作　永持五郎治
太田源三郎。　貞助
箕作秋坪。　恒藏

覺藏　新助
十兵衞　鹿之助
貫治

○同晦日　丑天氣　八十二度

一今朝同所臺場遊步海岸城の如く築地にて砲臺火藥用意有之步卒三百人程有之內英人參り二百人は土人の由

一釋迦誕生の地には百四十里位とか有之由御母の墓所も有之由○港に這入候船は大小により一日に何程つゝといふ極り有之運上相立候由○食料薪は勿論水も代料差出積込候事の由今日案內者委細に御噺申上候

一出家四人參り候日本に替り無之黃繻子の法の法衣着土地の人は惣髮にてベツ甲の輪のよふになつたるクシを差て居候坊主の人は同し印度地にても又所か別と相見へ候

一此地の小船は幅至て狹く漸々一尺位可有之依て脇へ浮に相成候木を付

て居候餘程大きなる船にも此作り有之候

一當所の御止宿入用は當地奉行より取賄候樣申由二十九日一泊にて三十兩も相掛候樣トナルト申候由

○二月朔日　寅天氣　八十四度

一今日七ッ半頃より出帆

○同二日　卯天氣　八十二度

一今日も至て浪靜也風は程々有之セイロンなとにて岩に打掛候所白浪餘程立候へとも海中は靜也

一今日晝午時迄昨日出帆より酉戌へ走り百十里

○同三日　辰天氣　八十三度

一今日午時迄走り百四十里

○同四日　巳天氣　八十一度

一今日午時迄酉戌に走り百六十三里

○同五日　午天氣　八十一度

一同百四十八里

○同六日　未天氣　八十度

一同百九十二里

○同七日　申天氣　八十度

一同百九十八里

○同八日　酉天氣　七十八度

一昨夜より少々浪荒く相成り今朝は船も少し動搖致し候尤風も先日中よりは有之候

一今日正午迄二百六十里

○同九日　戌天氣　七十八度

一今日は浪靜にて動搖もなし

一今日正午迄二百三十里

○同十日　亥天氣　八十度

一今日正午迄酉戌の方へ走り二百十五里

一浪風靜也ソコタラ島遙に左に見ゆる餘程廣し

○同十一日　子天氣　八十度

一今日同斷二百十四里

○同十二日　丑天氣　八十一度

一今日正午迄二百十二里走り夫より阿丹着迄五十里餘とは申事に候也

一今夜九ッ過頃阿丹へ着

○同十三日　寅天氣　八十一度

一今日は御上陸も無之御積りの所當所詰英人參り御勸め申候趣にて御三人丈け御上陸馬車にて御遊歩の由土人家作至て見苦敷乞食小屋にも劣り候樣にて土座の由ラクダを遣ひ荷物等運ひ候由濱際にて凡百間位切拔ホラ穴の道矢張馬車にて御通り總體此地水至て拂底天水等用ひ候趣

山々木草なと一本もなく人家の邊も餘程手當致候もの一本位も有之由至て炎熱の土地の由噺しに有之候　今夕七ッ時出帆

○同十四日　卯天氣　八十二度

一地中海御迎の船キマレヤと申船參り候由昨日傳聞有之候

一今日午時迄百五十九里

○同十五日　辰天氣　八十三度

一今日午時迄百九十三里

○同十六日　巳天氣　八十二度

一今日午時迄二百八里亥の方へ走り

○同十七日　午天氣　七十九度

一同二百一里同斷

○同十八日　未天氣　七十六度

一今日戌亥の方へ

一火入調練大砲手打方致候

○同十九日　申天氣　七十五度

一昨日より左右に山見ゆる不殘禿山にて草一本も不見誠にハゲ山のみ且砂濱樣の樣子見ゆる今日午時迄走り

○同二十日　酉天氣　七十度

一今朝四ッ時過着の處遠淺にてシエス上陸迄は未た二里位も有之に付川蒸汽船に乘替當用の品のみ御持せ今夕は蒸汽車路九十里參り候へはクワイロと申處に御止宿可被成跡御荷物總人數は明朝上陸の趣にて俄に御上陸に相成候則シエズへ御著御上陸シエズにて船着際にホテル有之是にて一寸晝御支度有之其中荷物を上け直に波戸場にて蒸汽車へ積込御三方樣其外一同乘込候蒸汽車は一番先に蒸汽有之其次荷物籠夫より次召候部屋に相成り一部屋に先つ八人乘り位上分は左樣には召し不申四人位か右二間つゝ續きにて一棟と相成居人數次第にて一軒も續き候

樣子今日は六軒續きに有之候上の間は內通りドンス等にてヒジカケも同斷見事に有之候

一蒸汽車早き事誠に早きものにてシエズ乘出しは八ッ時に有之九十里と申す該錄と申す處に七ッ過着左右石も杭なとも島のよふにて不見分却て遠き所は見ゆ尤クワイロ手前一里半か二里計り馬車にて參り候事右は英里法十四丁と申事也

一該錄にては當所奉行より別に設にてホテルに無之日本の本陣とも申樣に候內は是に御止宿シエズよりは蒸汽車鉄路三車分有之左右にはテリカラフの張鉄幾筋も引有之左右砂小砂利のみ山々禿山のみ見通りに草木一本も無之休所クワイロ迄に三ヶ所是にて石炭水等積込候樣子小用等致候事シエズ近くには追々河原ヨモギとも可申樣の草手まりより五六寸位の草少しつゝ有之追々近所には木も有之畑も有之候

クワイロは黑入度(エシフト)國の內城下也歷山王築也

○同二十一日　戊天氣　六十度

一クワイロへ御滯留

○同二十二日　亥天氣

一同御滯留

一クワイロ城へ爲御一見御出

一今日は殊の外冷敷小胴着に袷着用

一夕方町方遊歩

○同二十三日　子天氣

一同御滯留

一綿入着用致候

一クワイロ見物に乘る借馬代往返にて半ドル借受罷越候城の内に寺有之見事なるもの城内も見物ロウ石にて敷石結構也寺内本堂の處餘程廣く大柱等ロウ石一丈角位大造なる事に有之候

一町家四萬軒程有之候趣城より見渡し候へは京都位も可有之かと相覺候町幅狹く見苦しき町也家作家根と申は無之只平天井の上シックヒぬり也

一此地は雨至て拂底年に兩三度位去冬十二月に雨降り候後雨無之由依てホコリ立候事夥しく困り入候

一井戸水を車にて上る牛馬引有之

一オレンジ八つドル八分の一にて求之一ドルに付六十四かへ

同二十四日　丑天氣

一今朝五ッ時クワイロ御出立可被成の所御用御引合にて遲刻九ッ頃御出立先日馬車の所横寄りに付尙又同所迄馬車にて參り蒸汽車に乘込上下三十六人荷物共部屋八ッ續にて出るクワイロより六十五里參りハマチと申處にて辨當支度有之よきホテル也夫より四十五里アレキサンデリアへ着川蒸汽船にて大船に着夜五ッ時也

一該錄より此方は左右不殘畑殊の外廣く眼屆き不申麥ソラマメ大豆ワタ

なと出來麥は不出來の方也ワタ木はオトロの樣に相成候牛馬ラク駄兎馬ヤギブタ等多分見ゆる人家も左右に多分有之共地面には人不足と被存候

一クワイロ人氣至て不宜被存一寸買物賴候も割を取り候樣子一寸用を達しに參り候小遣體のものも何かくれ〳〵被申樣子食事の節も出ものもかくし仕舞置己か私欲に致候樣子也

一此度の船

船名　ヘメレヤエマレヤ　船將　ションコーン

長さ　三百七十五フート　六十二間半

幅　四十七フート　八間內

噸數　三千五百トン　積馬力七百五十

乘組人數二百二十人但し士官十三名蒸汽方九人第一等ノット大砲六丁二十四ポンド

一船至て美事なり會食等の部屋廣く御使節方船將幷一等士官會食次の間日本士官幷船中士官同部屋餘程廣し

一此度は食事等船よりの賄也不殘異人支印度西洋料理也飯もあり是は追々日本人焚方申談し候由よき飯出來候

ワタ入胴着相用候

○同二十五日　寅天氣今朝少雨有之　寒暖計六十八度

一今朝六ッ半頃出帆午時迄四十五里走り

一此間シエズ此方追々寒く該錄にては色々重着致候今日なと綿入襦袢小胴着用也

一今日は風も餘程强く浪立船動搖致候

○同二十六日　卯天氣　六十七度

一今日午時迄走り戌の方へ二百四十四里

一風餘程有之浪立船動搖致候

○同二十七日　辰天氣　六十七度

一今日正午迄二百八十四里

一今日は少し風穩也然れとも夕刻より南風強し

○同二十八日　巳天氣　六十七度

一今朝四ッ時前マルタへ着地中海也着迄二百六十一里

一マルタ港誠に良き港大船も餘程碇船臺場至て嚴重港の三方皆城廓の如し

一今日九ッ過より御上陸

一御上陸の節相向の船にて祝炮相發し尙又港口左右にて祝炮數發

一今朝着船より御國旗中柱へ上る且御上陸の節バッテイラに御國旗上け本船の方下す

○同二十九日　午天氣

一イスパニアマルタへ今日停船

一マルタ繁昌の地家作は矢張家根なく二階裏の通りにて上はシックヒぬり也柱と申ものもなく四方ネリ塀のように石土にて積立土藏のよう出來三階四階中には五階も相見候戸口は八尺に四尺位扉き也惣内外シックヒぬり

一風呂は水と湯兩口有之勝手次第加減入湯の事

一サンゴジ細工澤山有之候

○三月朔日　未天氣

一マルタへ御滯留

○同二日　申天氣夜に入り少雨　六十八度

一今日本船へメレヤへ御歸り

一マルタ港九ッ時頃出帆

一御國旗中柱へ上る所々祝炮相發候

○同三日　酉曇夜少雨　六十度

一昨日出帆より今日正午迄走り
一今日風荒く船動搖多し
○同四日　戌曇　六十二度
一今日正午迄走り風荒く船動搖甚し
○同五日　亥雨氣
一今日四ッ時頃マルセイルへ着八ッ時過より御上陸
一マルセイルは是迄の港一番の場所にも有之至て繁昌能所也
一綿入袷羽織にて上陸致候
○同六日　子天氣　六十二度
一今日マルセイル御滯留
一御荷物着に付御支配向其外御家來向同道波戸場へ罷出候所佛蘭西役人罷出居夫々御荷物は御受取り申損し有之分は手入致候兼て爲其申付置候土藏へ積込夫より蒸汽車にて御屆可申旨申候

一御支配向も銘々共も先今日遊歩は致間敷旨御沙汰
一マキドナルト手紙認置今夕先にパレイスに參る由
○同十七日　丑天氣
一今日四ッ半頃マルセイル御出立同町蒸汽車問屋場共可申樣の處迄馬車にて御立前後騎馬鎗にて御警固一方三十騎位つゝ夫より蒸汽車に被召レヲンと申處に御止寄是迄英里法二百四十里と申事七ッ半過御着今日はマルセイルにて御立前朝飯のまゝ晝支度なし
一小休所處々有之支度所ホテル樣の物も所々相見候
湖水かと存候大きなる水海も有之川もあり切通しに相成候穴道三四丁か今少しも可有之被存候穴道暗路も三四ケ所もありレヲン又一段能處也都近にて町方も何となく上品に相見へ候家數も多分三十萬も可有之由
○同八日　寅天氣

一今日レヲンへ御滯留

○同九日　卯天氣

一今朝五ッ時頃御出立蒸汽車にて佛蘭西パレイスへ夕六ッ時頃御着今日の里數英法三百六十里の由

一今日晝支度ジョンとか申處小休所五七里置位小使も世話敷位車の油を直し候間のみ也大川もあり穴路も所々有之御止宿ホテルは城前町カランドホテルルーブルとか申候凡そ八十間四面も可有之大きなる家作也戸前か殘らすガラス障子板戸無之内張掛り居候

○同十日　辰曇　六十五度

一綿入胴着羽織等着用也

○同十一日　巳天氣曇

一今日ミニストル宅へ御三方幷柴田樣共御出馬車御迎に罷出候御供一人つゝ是又馬車也此宅至て美麗なり實に門徒宗の佛壇の如し

○同十二日　午曇

一此節至て寒し綿入胴着也

○同十三日　未曇

一執政の役人十一日御出ミニストル今日御旅宿へ被罷出候

一十五日御謁ひの御引合の由

○同十四日　申天氣

○同十五日　酉曇雪氣色有之

一今日國王へ御謁見正八ッ時御出宅御狩衣御着用御太刀御三方樣御同樣柴田樣には布衣日高福田水品岡崎素袍着用爲御迎御三方樣には馬車六疋つゝ馬幷車の飾り誠に見事也竹内樣には御國書を以て(此處二字不明)一車幷に御迎の異人紫羅紗縫のもの着用にて乘込松平樣と京極樣御一車也是にも異人同樣にて乘込候都合各馬二疋つゝ飾等は何れも同樣御供は御三方樣一人つゝ熨斗目上下にて御先に御殿へ罷出御待申居御上

りにて御太刀附差上候事卽刻無滯相濟み御歸り尤國帝幷に皇后太子と御三人共御一所に御逢の趣帝王と申ても矢張羅紗の筒ボウ何も替りし裝束等無之由

○同十六日　戊天氣

一芝屋御馳走の趣にて御家來も一人つゝ參り候樣申事にて候由

○同十七日　亥天氣

一齋藤氏より相達し候外出規則

外出規則

一外出致候ものは銘々前夜より申立置當日出入の節尙其筋へ相斷り可申候事

一朝夕二側に振分刻限の義朝は西洋第九時より十二時迄夕は十二時より五時六時迄と相心得可申候

右不相失候樣出入可致尤夕側のものは朝側のもの歸り候上外出可致候

但し從者のもの等は役々の外出致し候節は其都度々々に可申達候間申合他出可致候事

右の通り御書附にて相廻り候

○同十八日　子天氣　寒暖計五十八度

一各國ミニストルへ爲御面會御出有之候

一國帝よりの御馳走にて今夕芝屋へ御出舞臺至て奇麗且つ見物處も中座も腰掛は各鳶色天鵞絨にて包み揚座三階有之手摺彫もの色メッキ三方緋緞子にて天井はゴウ天井なり役者の出る事多く人數二百人餘三百人位も出る事あり言語不通故何藝か不相分候得共衣裝美事なり踊り若き女多人數出て見事なり凡て男女打交の藝なり鳴もの致候もの舞臺散敷よりの所にて七八十人も囃方致候

○同十九日　丑雨氣

一陶器製作所へ御一見御出

一御馳走にて曲馬へ御出散敷も奇麗曲馬奇々妙々なり是の腰掛なと鳶色天鵞絨色也

○同二十日　寅天氣　五十七度

一金銀メッキ銅其外細工所へ御一見

御畫後展觀場御一見幷佛魯(マヽ)戰爭の節セバストポール臺場打破佛勝利合戰其儘眼前に見る如く如何して斯樣に見へ候哉八角堂二階より四方を見るに山の方も見へ海の方城下も見大合戰最中の所其儘相見候誠に奇々妙々なり是を一見夫より製鐵所へ御出大造なるものなり人數も內々千五百人も居其外總體にて二千人も使ひ候由御歸り納凉所とも可申樣成場四方平林にて通り有之大きなる池有之中島に茶所とも可申建物有之掃除至て能奇麗風景の地車にて乍御歸御遊覽今日なと途中馬車の多き事夥敷二三千も行合可申と被存候

○同二十一日　卯天氣　六十五度

○同二十二日　辰天氣　六十五度

○同二十三日　巳天氣

○同二十四日　午天氣　七十度

○同二十五日　未天氣

○同二十六日　申天氣

一英國ミニストルへ爲面會の御出有之水菓子一小皿サンパン酒一コップ差出候

○同二十七日　酉天氣

一呉服屋にて昨日承り候女の外出の節背中に引かけ歩行く風呂敷樣のもの四尺四方位にて縫ひしものの上品は九百ドル位の由同し樣にても仕掛にて縫ひ候ものは又下直と申事

○同二十八日　戌天氣

○同二十九日　亥雨氣　六十二度

一明後朔日御出立英國へ御出候に付御荷物等支度致候

○同晦日　子天氣　六十一度

○四月朔日　丑天氣

一今朝六ッ半時バレイス御出立佛里九十二里佛國港カレイヌへ八ッ過御着蒸汽車休所五ケ所なり

一今日カレイヌ港へ御泊り

一當港燈明臺御一見且つ麻製處の御一見として御出

一燈明臺六角にて積立高さ殊の外なり壇數石壇二百五十二極上に至り鐵ハシゴ二ッ四十壇有之其上ガラス燈籠有之

○同二日　寅天氣

一今朝四ッ半時カレイヌ御出立直に船に御乘込英國ドーブル港へ九ッ半頃御着海上二十一里

一今日御船佛國より送り船名コロス小船也

一ドーブル港迄佛國より是迄御附添申候役人共御送り申候か當港より引取

一ドーブルより蒸汽車にて大英國ロンドンへ七ッ半に御着此里數八十二里

一御旅館フロック、ステリイト、ホテル、カラリッチへ御止宿

○同三日　卯天氣

一展觀場へ御出

○同四日　辰天氣　七十度

一事務宰相へ御出

一風呂屋一ケ所より無之同風呂にて入湯致候

○同五日　巳天氣　六十六度

一市中へ御遊歩

○同六日　午雨氣　六十八度

一遊園へ御遊歩鳥獸御一覽鳥獸には孔雀駝鳥をはしめ鶴は品數有之其外諸鳥多く毛物は獅子虎豹種々樣々の蛇も大蛇長さ一丈三四尺回り一尺二三寸位各雌雄にて二番三番も有之夥敷事に有之候

一町方の樣子家作もバレイスには不及繁榮は尙更の事江戸よりは餘程劣り可申

一家作りは往來平地より三階四階にて平地より下へ一階堀込み雨落しと申樣の處より明りを取り都合五階にも相成候家作り也

一英國は佛國より古木等も相見へ家作りも少々木品遣ひ候事に相見候然し外曲り等は矢張り枕のやうな角ある燒物にて積立候ものに有之候瓦家根急也

○同七日　未天氣　七十度

一今日四ッ過御出有之鐵砲御覽

一御晝後御出の義政館に御出

一夜に入りダンスへ御見物に御出

○同八日　申雨　七十四度

一各國ミニストルへ爲御面會の御出

○同九日　酉雨降　七十度

一今朝御出有之武器製作所の由

○同十日　戌天氣少雨氣

一御對食にて御招御出

○同十一日　亥雨降

一當國女王先達イスランドへ被參未た歸城無之此間中歸城の儀御掛合有之候得共愈々御歸城可致趣にも無之太子も外國へ特に被參留守中に付無御餘儀御國書は今日事務宰相へ御持參御渡しに相成候今日は服紗麻上下御着用也御支配向も同樣上下にて御附添罷越し途中警衛等も無之馬車も平日の通り並の二馬にて御供もなく候

一馬上砲一挺に付代料七ポンドの由

○同十二日　子曇少雨氣　六十六度

一船製造方爲御一覽御出六船製他には無之デマス河へ穴道横渡り御見物武器庫等御一見鐵砲六萬挺も有之候由

○同十三日　丑曇雨氣

○同十四日　寅曇

一蒸汽器械製作所へ御出誠に奇妙也蒸汽仕掛にて製作五分位の鐵板に鋲穴を明る事大根に穴を明るより心安く又けつる事かんなにて木をけつる如く太き鋲をこしらへるも鐵の棒を燒き仕掛の道具一寸當ると大根を切る如くツフ〳〵と切れ夫を又道具に受け頭をおすと直に鋲になり水をかけて道具か少し廻るとタレ木有りフイとはねると下に箱有之其内にコロと落る誠に一丈二尺角も有之鐵を四五人にて自由にきたへ人力不費して妙なり

一右御出の節馬車にてテームス河迄御出夫より二三里も右器械製作所迄有之へく川蒸汽船にて川下へ御下り御歸りには右製作所主人の内へ御立寄御休足至て宜敷宅庭殊の外手際種々草花有之庭内蒸汽車通行奇妙也是にてブトウ酒くわし差出候

一テームス河江戸兩國川位かロンドン橋は石橋橋杭四ヶ所眼鏡橋の如し同石橋も亦一橋あり鐵橋もあり川下の方幅狹し

○同十五日　卯曇　六十四度

一今朝御出有之今夕も御出有之

一今日の料理朝パン御飯茶にゆて玉子燒サバ午時ビイル酒飯ヒラメ湯煮イモ湯煮夕にビイル飯カレイ燒イモ湯煮

○同十六日　辰曇　六十二度

一今晝後御出有之

一今夕も御出有之

○同十七日　巳曇晝後雨降

○同十八日　午天氣

○同十九日　未天氣　六十七度

一今朝十二時より執政へ御出

一今夜九時過より尙又御出有之

○同二十日　申天氣　七十度

一今日十一時御遊園へ御出有之

○同二十一日　酉天氣

一今日晝後より展觀場へ御出

○同二十二日　戌天氣

一今朝十時より御出女王の別園の由

○同二十三日　亥雨氣　六十六度

一今日十一時より御出

○同二十四日　子天氣

一今日晝後より御出

一今日は種々古物有之舘にて先つ入口に大石にて凡そ一丈六尺も可有之石に馬の形にて翻有之もの彫付左右に立有之同樣にて少つゝ替り有之生物彫付たる石入口毎三四ヶも有之夫より右石數多有之又古代の棺と相見へ長さ六尺位幅二尺位伏棺と被存候其上に仰向きに死骸を麻のようなるものにて包み細きひもにて首より足まできり〳〵と卷きたる乘證繪なと有之餘程上下有之と相見へ候夫より種々樣々の鳥類畜魚類なともにて誠に生たる如くなそらへ有之其外色々奇物數多有之候

一右御歸りかけ町並に御立寄の處右場所の掛りか又隱居か小鳥干物にて數多拵へ硝子籠に入有之内々御立寄御見物

○同二十五日　丑天氣

一十時より御出調練御一見の由

○同二十六日　寅天氣　六十六度

○同二十七日　卯天氣

一今日晝後御出有之阿蘭ミニストルへ御出の由

○同二十八日　辰天氣　六十四度

一ニユカソン其他へ今朝七時御出立にて御出

○同二十九日　巳雨氣

○同晦日　午曇　六十五度

○五月朔日　未天氣　六十八度

一今日食事朝パン茶湯煮玉子カレイ、ランプラ飯午時飯燒サバゆでイモタ飯湯煮ヒラメゆでイモ也

○同二日　申雨降

一今日夕五時御歸り有之候御出の日はニユカソンと申處へ御滯留石炭掘出し御一見夫よりペハホウルと申處へ御越にて船造所等御覽夫よりピ

ルミンハンモと云ふ處に御越にて鐵砲製作所ガラス製處等御一見同所より今日御歸りの由

一通辭守、山太吉郎淵邊某今夕無滯參着尤江戸表二月二十一日出立の由

一松永氏蕃所調取書物御用出役へ仰付御禮罷越候旨申越候

○同三日　酉曇

一今日十二時より展觀場へ御出今日御覽に相成候場所は花園幷日本の品有之邊より時計有之邊御廻りにて御歸り

一ホテルの下女毎日御部屋等掃除に參り候女の名一人はシヤーラと申一人はキヤラロームと申候

○同四日　戌天氣

一今朝七時半御出鐵船製作所の由

一今日夕方近處へ御出

○同五日　亥天氣　七十度

一今朝八時御出鐵砲製作所の由
一節句に候へ共平日の通り何事も無之
○同六日　子雨氣　六十六度
○同七日　丑天氣
一今日御出有之
○同八日　寅雨氣
一晝後執政へ御出
○同九日　卯雨氣
一今夕刻御出有之今日も執政宅也
○同十日　辰天氣
一今朝俄に御出有之アールコックの方の由
一英國女王より竹内樣へ置時計松平樣京極樣へ御懷中時計柴田樣へ双眼鏡御送りに相成候其餘何もなし

一十三四日頃當地御出立に可相成哉
○同十一日　巳天氣　六十九度
○同十二日　午天氣
一英國御出立の御用意
○同十三日　未天氣
一今日御出立にも可相成哉の處御用向片付不申明日御出立と御決定に相成候
一明朝御出立の處御迎蘭船より御荷物積物方等に付一日延引の由申越候趣にて明後十五日一時御出立と相成候事
○同十四日　申天氣
一今朝寫眞御出有之
○同十五日　酉雨降
一今日英國御出立阿蘭陀へ御越に付今朝十時に御當用御荷物差出十一時

半に御支配向同道上下一同馬車夫より暫時蒸汽車尙又馬車にてウレシと云ふ英國の港まて和蘭より御迎としてアルジユウノと云ふ軍艦參り直に其船へ御乘込トナルト其外も是迄御送り申此船にて御暇乞申上今日は出帆無之尤今日は風雨故にも有之候此港にて英の祝炮有之

○同十六日　戊天氣

一今日十一時ウレシの港御出帆差て動搖は無之

○同十七日　亥天氣　六十六度

一今朝五時頃和蘭へルンフウ、ツロイスと云ふ港へ着祝炮有之是より川船へ御乘船に相成候此の河船は和蘭王の御座船と申事至て見事なる船なり是にて一時半位川を參る此川堀割と被存候ロツトルダムと云ふ處へ御上陸御上り場所川岸に御國旗和蘭旗と交へ數本相立御出迎の役人有之馬車問屋とも可申待合の樣なる所へ御國旗和蘭の紅白青三色の旗と交へかゝけたるようのものに內々和蘭京より日本尊客の爲に恭敬と云ふ文字を三行に認め正面に掛け有之其處にて出迎役人へ御挨拶有之馬車に召し夫より蒸汽車四十五里有之由和蘭府スガラーヘンハーと云ふ入口へ御着尙又待合場にて出迎役人有之是より馬車へ御召替御通筋七八町程も兩側へ二行にソルタート相立夫より騎馬二行に二百騎程相立警衞有之且つ御迎の旗和蘭三色の旗と一つ置十五間置位に數本相立都府內の御通りの前後騎馬にて警固有之誠に恭敬無此上道々左右は勿論兩側家に三階四階まて明間なく見物人夥敷事無滯今日五時頃ホテルへ御着

一御旅館前に日の丸御旗同吹流付中程に又取矢かゝけたる旗の中に和蘭京より日本尊客の爲恭敬と云ふ文字三行に認め竹內樣梅の御紋付にて一本たて和蘭三色も吹流に中程に旗をかゝけたる中に松平樣蔦紋付にて一本右に三色吹流しと同樣にて京極樣四ッ目御紋付にて一本都合三本相立

一ホテル名前ホーテル、ベレフヒー町名ベリイデンホート
一今日御着用綿入に胴着位羽織は袷單思ひ思ひ也
○同十八日　子天氣朝少雨有之
一今日銘々共食事朝パン、茶、ラカン、畫パン、葡萄酒、肉チンブラ、五升イモチンブラ、夕飯パン、メシ、ブドウ酒、吸物ようなるもの肉煮付、五升イモ煮付、魚の煮付、海老、夜に入茶
和蘭國も至て平かに山も無之候得共只々原のみにて牛豚等養ひ候のみ畑も一向不相見地味甚惡敷相見候
○同十九日　丑天氣朝少雨有之　六十七度
一執政方へ御出有之
一御旅館水風呂一昨日も相立候得共水至て惡敷御用不相成風呂屋有之由にて今朝兩三人御支配の向御越晝後申合て參旨に付御支配十人餘り小使等同道湯屋へ入湯に罷越候處道も五六丁餘りも可有之ホテル前より見物人夥敷前後左右に附纏ひ何分歩行出來兼町同心とも可申樣のもの五六人にて制し候得共何分多人數附纏ひ困り入候入湯は湯瓶二十餘も可有之水は可成也
御支配向も差困り歸りは馬車申付罷歸り候入湯の途中役人罷出人を押し通行致し候なと一奇事に有之候
一御旅館前見物人の立事御着より日々夥敷十時過より暮過る迄凡千四五百人と被存候
○同二十日　寅天氣今日も朝少雨
一調練爲御一見御出
一尙又展觀場とも可申樣の場所に御出
一今日御荷物參る一包不足の處二十二日參る
一今日王の皇后誕生日の由にて音曲有之場に夜に入御見物に御出平林の內廣き道有之左右生木にコッブに燈いたし九つ位一つ處に有之分餘程

有之鎭守の宮とも可申樣なる處右コップの燈數百千夥敷事音曲有之見物人も誠に多人數男女罷出居候

一娘共花持ち居思ひ〳〵くれ候

○同二十一日　卯天氣早朝少雨

一製鉄所へ御出

○同二十三日　辰天氣朝少雨

一大砲鑄直し爲御一見御出

一御晝後地圖處より濱へ御出

一夜に入り執政へ御出

○同二十三日　巳天氣朝少雨

一今日ロットルダムへ御出

一食事朝パン、肉ラカン、晝パン、飯、五升イモ、肉油アゲブドウ酒、夕パン、飯、吸物魚煮付、五升イモ、ブドウ酒なり夜に入茶

○二十四日　午天氣

一今朝執政へ御出午時過各國ミニストルへ御出夕刻尙又御出

○同二十五日　未雨氣

○同二十六日　申天氣

○同二十七日　酉雨降

一御晝後御出

一夕刻尙又御出

○同二十八日　戌曇

一アムステルダムへ御出今朝九時御出立御待合にて十時より蒸汽車アムステルダムへ一時半頃御着騎馬兵四十騎計り前後左右へ警固見物人夥敷ホテルの前少々の明地無之

一御着晝御飯相濟直ちに御出幼學所より珍書館、シャマン石磨所等御見物町方到て繁榮人口三十萬餘りと申事

一夕刻七時より王城へ御出天主より御問每御一見美事の事に有之勝利の節の旗數本大廣間と思敷處に掛け有之夫より寺へ御出御見物御歸り

一ホテルもよき旅館屋なり食事等隨分宜敷

○同二十九日　亥天氣

一今朝十時より御出水上荷物置場に候土藏數十軒有之夫より水主元締にも候やマタルス木賃宿の由餘程廣きもの天文學航海學も有之樣子水上荷物運上役所製鉄所至て手廣く長さ一丈餘幅七尺位にて日本使節臨賀の爲和蘭國王の製鉄所之れを領カと大文字に則ち御望の處にて御目に掛け候鍵其外軍器品大樽小樽品々揃ひ居綱引大小材木種々裏は船付にて棧橋有之大船へ直ちに乘込出來新造製作所數軒大船六七艘も出來致しかけ鐵船も二艘計り作り掛りに相成居候四時頃御歸り

一夕刻より對食に御出

○六月朔日　子天氣

一六月には相成り候得共矢張四月頃より寒暖同樣

一今朝十時頃より御出盲目學文所へ御出手職稽古所御覽二ヶ所讀物場活字判植方等致し居り夫より一同相集り音樂に入御聞誠に感心に堪候事也○夫よりテリカラフに御出御一見砂糖屋に御出夫より鳥畜園に御出庭廻り夫々御見物音曲有之珍敷鳥畜魚有之蛇の大きなる事凡そ二尺圍りも可有之被存候見物人數千人別て婦人多し此處にて御晝支度有之四時頃御歸り

一七時より花火に御案内音曲有之庭にて五色の燈もの有之是も夥多敷人也此處も廣間席有之遊園と被存候

○同二日　丑曇

一一時頃アムステルダム御旅宿御出立會議堂にて一同御暇乞の御挨拶有之夫より展觀場造營の處に御廻り四時蒸汽車に御乘り込夫れ迄騎馬四十騎計りつゝ前後左右に御出迎御警衛申誠に手厚き御はからひに候也

七時過パークへ御歸り

○同三日　寅天氣

○同四日　卯雨氣

一十一時より御出有之尚又夜に入り同斷

○同五日　辰雨降

一今日和蘭國王へ御謁見に付五時御出爲御迎馬車參る右御三方狩衣夫より柴田樣布衣日高福田素袍着用尤六月には候得共寒く一同申合熨斗目相用にて御先に王城へ參り入口にて御待申居御太刀を取御控所迄御供仕り同所にて御太刀を附け御謁見直ちに相濟み御退散今日御逢は國王御一人也

一夜に入り御旅館前にてソルタート三四十人參り音曲致し候見物人夥し

一今日御出の節騎馬三十五騎ソルタート三四十人御迎に參り前後左右警衛致し候

御進物の儀は未た着船無之故今日何も無之

○同六日　巳雨降

一王妃幷王子へ爲御面會今日夫々屋敷へ御出御袴御羽織なり

○同七日　午雨降

一今朝九時より御出

○同八日　未天氣

一ライデンへ朝九時より御出人口も四萬位有之候由よき所なり御待受旗町に夥し今日御一見鳥畜干物館天文臺テリカラフ織物所奉行所製鉄所羅紗織方其外夫々御覽有之奉行宅にて夕御支度有之御歸り夜に入る

○同九日　申天氣

一執政へ御出

○同十日　酉天氣夕少雨

○同十一日　戌天氣

一國王へ今夕六時御對食被御招御三方樣柴田樣とも御出王妃王族共御對食の由十一時頃御歸り

○同十二日　亥天氣

一今日は御出立フロイスへ御出の積に候得共御用向相濟不申趣にて御延行に相成候

○同十三日　子天氣夜雨

一王の伯父御住居所へ御出

○同十四日　丑雨氣

一魯西亞ミニストルへ御出

○同十五日　寅雨氣

○同十六日　卯雨氣

一十九日和蘭御出立の御豫定

○同十七日　辰快晴　七十度

○同十八日　巳天氣

一和蘭ホテル、ボーイへ一人前十ドルラルつゝ御心付被下樣相成候由

○同十九日　午天氣

一今朝八時和蘭御出立同國エテレフト御止宿同斷奉行所にて晝御支度有之夫より金銀貨製作所へ御越製作方御一見有之夫より分離御夕めし有之同所にて日本御紋幷に和蘭紋所付たる一寸位の丸の銀錢なる樣のもの且つ銅錢と一枚つゝ御奉行方に差上從者共まて一同右兩御紋付の銅錢一枚つゝ貰ひ候夜分も御出有之

一ハーグよりエテレフト迄二十四里有之由エテレフト人口五萬

○同二十日　未天氣

一御出有之

一今日エテレフトへ御滯留

一王母御住所へ御出今夕御對食